KENWOOD

MP3/WMA/AAC対応CDレシーバー

I-K7

取扱説明書

お買い上げいただきましてありがとうございます。
ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みのうえ、
説明の通り正しくお使いください。
また、この取扱説明書は大切に保管してください。
本機は日本国内専用モデルですので、外国で使用することはできません。

株式会社 ケンウッド

Kenwood Corporation

目次

この取扱説明書の読みかたや、全般的な注意事項が書いてあります。最初に一読してください。

ここを読めば、ひととおり操作できます。

各機能の設定はここから始まりますので、ご覧ください。

各ソースのいろいろなプレイ方法が書いてあります。ちょっと慣れたら読んでください。

本機のいろいろな設定や調整方法が書いてあります。

リモコンで本機を操作する方法が書いてあります。

トラブルの解決方法などが書いてあります。思いどおりに動かないときに読んでください。

デモンストレーションの解除について

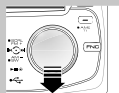
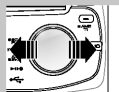
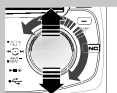
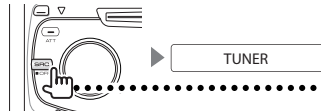
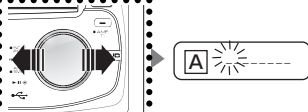
ご使用になる前にデモモードを解除する必要があります。詳しくは「デモンストレーション設定」（p31）をご覧ください。

「オーディオファイル」とは？

本書に書かれている「オーディオファイル」や「Audio file」とは、USBデバイス、iPodやCD-R/RWに記録されたAAC，MP3，WMAファイルのことです。詳しくは「Help? オーディオファイル」（p38）をご覧ください。

本書の読みかた

この説明書では、イラストを使って操作を説明します。

取扱説明書に記載されているディスプレイ部やパネルの表記は操作説明を円滑に行うための表示例です。
このため、実際の機器とは異なることや、実際にはありえない表示パターンが記載されていることがあります。

上記マーク表記例は実際の操作とは異なります。

短く押す

 で示したボタンをチョンと押す。

ファンクションコントロール

ファンクションコントロールモードにして、操作するアイコンを選択することを表します。
操作方法は「ファンクションコントロール」（p16）をご覧ください。

1秒以上押す

で示したボタンまたはノブを1秒（または2秒/3秒）以上押す。

動作が始まるまで、または画面の表示が変わるまでボタンを押し続けることを表しています。
左記では1秒間押すことを示しています。
押す秒数は記載された数字を目安にしてください。

表示の切り替わり

操作するたびに、ここに示した順番で表示が切り替わります。

その他のマーク

ケガなどを防ぐための大切な注意事項が書かれています。

特記事項や補足説明、制限事項や参照ページなどが書かれています。

その項目での全般的な注意事項や参照ページなどが書かれています。

ディスプレイ表示

この表示になるまで左の操作を行います。

インジケーター表示について

本書に「＊＊インジケーターが点灯します。」と説明されている場合があります。インジケーターの表示は「ディスプレイタイプ設定」（p18）のステータス表示をご覧ください。

安全上のご注意

製品を安全にご使用いただくため「安全上のご注意」をご使用の前によくお読みください。

絵表示について：
この取扱説明書では、製品を安全に正しくお使い頂き、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為にいろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

注 意

△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。近傍に具体的な注意内容が描かれています。

禁 止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

実 施

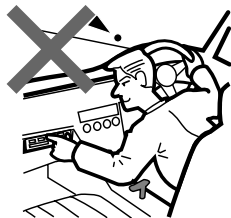
●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。近傍に具体的な内容が描かれています。

お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

交通事故の発生を防ぐため、必ず以下の事項をお守りください。

実 施

運転者が以下のような行為をするときは、必ず、安全な場所に車を停車させてから、行ってください。

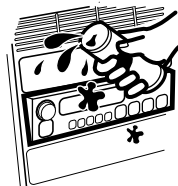
- カーオーディオの操作（音量調節、ディスクの挿入やUSBデバイスの取り付け・取り外しなど）

実 施

運転中の音量は、車外の音が聞こえる程度でご使用ください。

実 施

USBデバイスは運転に支障をきたさないような場所に固定してください。

以下のような異常があった場合は、直ちに使用を中止し、購入店、またはケンウッドサービスセンターへご相談ください。そのまま使用すると、火災その他の事故の原因となります。

- 音が出ない
- ディスプレイが表示されない
- 異物が入った
- 水がかかった
- 煙が出る
- 変な匂いがする

禁 止

修理は必ず購入店、またはケンウッドサービスセンターにご依頼ください。
お客様による修理は、火災その他の事故の原因となります。

禁 止

本製品の分解や改造はしないでください。
火災その他の事故の原因となります。

⚠注意

禁 止

ディスク挿入口に手や指を入れないでください。ケガをすることがあります。

禁 止

本製品内に水や異物を入れないでください。発煙、発火、感電の原因となります。

禁 止

本製品は、車載用以外としての用途では使用しないでください。

禁 止

本製品に、強い衝撃を与えないようにしてください。
ガラス部品を使用しているため、割れてケガをするおそれがあります。

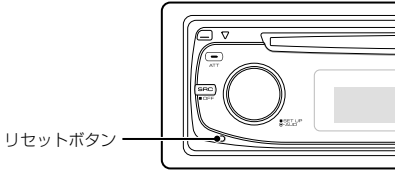
実 施

本製品の取り付け・配線は技術と経験が必要です。
安全のため<お買い上げの販売店>にご依頼ください。

使用上のご注意

異常にお気づきのときは

本機の異常にお気づきのときは、まず「Help? 故障かな？と思ったら」（p39）を参照して解決方法をお調べください。解決方法が見つからないときは、本機のリセットボタンをペン先などで押してください。

●

リセットボタンを押しても正常に戻らないときや、下記のような場合は、本機の電源をオフにして、購入店またはお近くのケンウッドサービスセンターへ相談してください。

- CDが取り出せない。
- CDを正しく入れ直してもインジケーターの点滅が続く。
- ディスクチェンジャーを接続しているのにディスクチェンジャーモードにならずに“AUX　EXT”と表示される。
- KCA-S220A、CA-C1AX/CA-C2AXが接続されていないときに“AUX EXT”と表示される。

USBデバイスのご使用上の注意

USBデバイスを車内に放置しないようにしてください。直射日光や高温などの影響により、USBデバイスが変形や故障する場合があります。

●

本機で使用するオーディオファイルはバックアップをしてください。USBデバイスの使用状況によっては保存内容が失われる場合があります。保存データが失われたことによる損害については、当社はその補償を一切いたしません。あらかじめご了承ください。

●

本製品にUSBデバイスは付属されていません。別途、市販品を購入してください。使用できるUSBデバイスについては「オーディオファイル」（p38）を参照してください。

●

USBケーブルを延長してUSBデバイスを接続するときは、CA-U1EX(別売品)をお薦めします。USB規格以外のケーブルを使用した場合やケーブルの総延長が5m以上になった場合は、正常にプレイできない場合があります。

●

USBハブを介してUSBデバイスを認識させることはできません。

本機に接続できるシステムについて

本機には、1998年以降に発売のケンウッド製ディスクチェンジャーが接続できます。接続できるディスクチェンジャーの機種名はカタログをご覧ください。

●

“O-Nスイッチ”の付いているケンウッド製ディスクチェンジャーは“N”側に設定してください。

●

接続している機種により、使用できる機能や表示できる情報が異なる場合があります。

●

別売品のCD/MDスイッチングユニット“KCA-S220A”を使用すると、ディスクチェンジャーなどを合計2台まで接続できます。接続などの詳しい説明は「接続」(p48〜50)および、KCA-S220Aに付属の取扱説明書をご覧ください。

●

本機およびKCA-S220Aには1997年以前に発売のケンウッド製ディスクチェンジャー/CDプレーヤー、および他社製のディスクチェンジャーは接続できません。接続すると、破損や故障の原因となります。

表示できる文字について

本機で表示できる文字は、シフトJISです。

お手入れについて

本機の前面パネルが汚れたときは、シリコンクロスか柔らかい布でから拭きしてください。汚れがひどいときは、中性のクリーナーを付けた布で汚れを落とし、その後クリーナーを拭き取ってください。
スプレー式のクリーナーなどを直接本機に吹きかけると、本機の機構部品に支障を与える場合があります。
また、固い布やシンナー、アルコールなどの揮発性のもので拭くと、傷が付いたり文字が消えることがあります。

レンズクリーナーについて

レンズクリーナーは使用しないでください。光学系部品に損傷を与えたり、イジェクトができなくなるなど、故障の原因になる場合があります。

オートアンテナ付き車に取り付けた場合

ラジオのアンテナが自動的に伸びるオートアンテナ車に取り付けた場合、チューナーモードにしたり交通情報機能をオンにすると、車両のアンテナが自動的に伸びます。
天井の低い車庫に入る場合は、本機の電源をオフにするか、FM/AM放送以外のソースに切り替えてください。

温度について

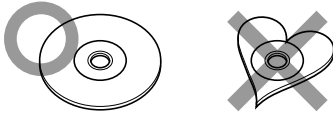
直射日光下で窓を閉めきっていると、自動車内は非常に高温になります。
本機内部が60℃を超える高温になると、保護回路が動作してディスクの演奏ができなくなります。
このようなときは、車内の温度を下げてください。
保護回路機能が解除され、演奏ができる状態になります。もし正常に動作しないときはリセットボタンを押してください。

結露について

寒いときにヒーターを付けた直後など、本機の内部に露（水滴）が付くことがあります。これを結露といい、この状態ではディスクの読み取りができなくなります。
このようなときは、ディスクを取り出して約1時間ほど放置すると、結露が取り除かれます。
もし、何時間たっても正常に作動しない場合は、購入店またはケンウッドサービスセンターへ連絡してください。

使用できないディスク

特殊な形状のディスクは使用できません。必ず円形のものをご使用ください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因になります。

●

記録面（レーベル面の反対側）が着色してあるものや汚れているディスクは引き込まない、取り出せないなどの誤動作をすることがあります。

●

マークの付いていないCDは使用しないでください。
前記マークの入っていないディスクは、プレイが正しくできない場合があります。

●

ファイナライズ処理を行っていないCD-RおよびCD-RWは再生できません。ファイナライズ処理については、お使いのCD-R/CD-RWライティングソフトやCD-RやCD-RWレコーダーの説明書をご覧ください。
このほかにもCD-RやCD-RWで記録されたCDは、記録状態により再生できない場合があります。

ディスクの取り扱いについて

ディスクの汚れや、ゴミ、キズ、反りなどが、音飛びなどの誤動作や、音質劣化の原因になることがあります。
取り扱いは記録面に触れないようにしてください。
（レーベルが印刷されていない面が記録面です）

●

記録面や、レーベルが印刷されている面に紙テープなどを貼らないでください。
CDにセロハンテープやレンタルCDのラベルなどのノリがはみ出したり、はがした痕があるものはお使いにならないでください。そのままディスクプレーヤーにかけるとディスクが取り出せなくなったり、故障することがあります。

●

ディスクが汚れたときは、市販のクリーニングクロスや柔らかい木綿の布などで、中心から外側に向かって軽くふき取ってください。
従来のレコードクリーナー、静電防止剤や、シンナーやベンジンなどの薬品は絶対に使用しないでください。

●

本機からディスクを取り出すときは水平方向に引き出してください。
下側に強く押しながら引き出すとディスクの記録面に傷を付ける原因となります。

●

新しいディスクを使うときは、ディスクのセンターホールや外周部に"バリ"がないことを確認してください。
"バリ"がついたまま使用すると、ディスクが挿入できなかったり音飛びの原因になります。"バリ"があるときは、ボールペンなどで取り除いてから使用してください。

●

音質向上やディスク保護を目的としたディスク用アクセサリー（スタビライザー、保護シート、レンズクリーナーなど）は故障の原因となりますので使用しないでください。

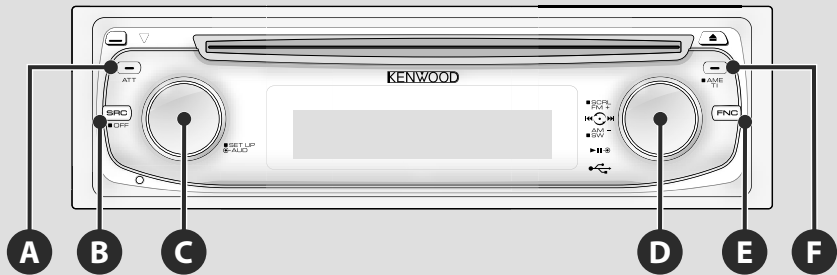
●

8cmCDはアダプターは使用せず、そのまま挿入してください。8cmCDアダプターを使用するとディスクが取り出せなくなるなど、故障の原因になります。

使用できる別売のリモコンについて

別売のリモコンについては、カタログをご覧になるか、購入店にお問い合わせください。なお、操作方法はリモコンに付属の取扱説明書に記載されています。

基本操作

共通操作

Ⓑ 電源をオン/オフします

[SRC] ボタンⒷを押すと、電源がオンになります。
1秒以上押し続けると、電源がオフになります。

Ⓒ 音量を調整します

オーディオノブⒸを回して調整します。

Ⓐ 音量を素早く下げます

[ATT] ボタンⒶを押すと、音量が小さくなります（アッテネーター）。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

- アッテネーターの動作中には ATT インジケーターが点滅します。

⚠ 注意

安全のために、周囲の音が聞こえる音量でお聴きください。

Ⓕ 交通情報を聴きます

[AME TI] ボタンⒻを押すと、交通情報を受信します。
もう一度押すと、元のソースに戻ります。

- コントロールノブⒹを左右に動かすと、交通情報の周波数（522kHz/1620kHz/1629kHz）を切り替えることができます。
- 交通情報の受信中にオーディオノブⒸで音量を調整すると、交通情報受信時の音量が記憶されます。

Ⓔ ファンクションコントロール

[FNC] ボタンⒺを押すと、ファンクションコントロールモードになり、各機能を設定します。
操作方法は「ファンクションコントロール」（p16）をご覧ください。

時計・日付の調整について

時計や日付の調整はメニューで行います。詳しくは「時刻合わせ」（p32）、「日付合わせ」（p32）をご覧ください。

デモンストレーションの解除について

ご使用になる前にデモモードを解除する必要があります。詳しくは「デモンストレーション設定」（p31）をご覧ください。

B D

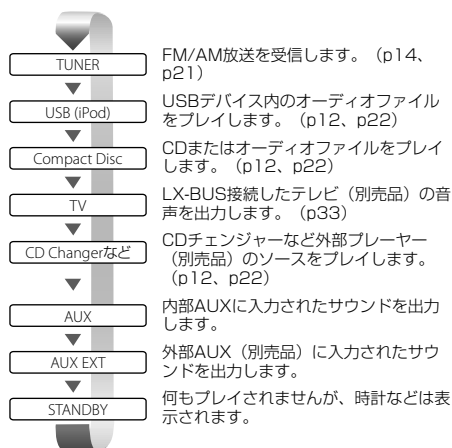
ソースを切り替えます

ソースセレクトモード1

1. SRC ボタン❸を押してダイレクト選択モードにします。
2. コントロールノブ❹を回してソースアイコンを選択します。
3. コントロールノブ❹を押して決定します。

ソースセレクトモード2

SRC ボタン❸を押すたびに、プレイ可能なソースが次の順に切り替わります。

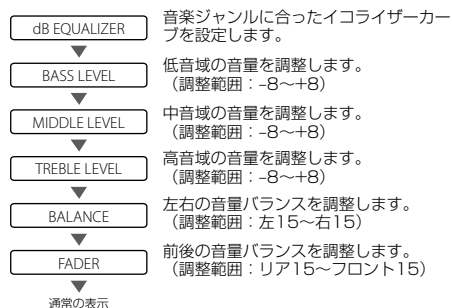
- TUNER：FM/AM放送を受信します。（p14、p21）
- USB (iPod)：USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします。（p12、p22）
- Compact Disc：CDまたはオーディオファイルをプレイします。（p12、p22）
- TV：LX-BUS接続したテレビ（別売品）の音声を出力します。（p33）
- CD Changerなど：CDチェンジャーなど外部プレーヤー（別売品）のソースをプレイします。（p12、p22）
- AUX：内部AUXに入力されたサウンドを出力します。
- AUX EXT：外部AUX（別売品）に入力されたサウンドを出力します。
- STANDBY：何もプレイされませんが、時計などは表示されます。

- ソースセレクトモード1、2の切り替えは「ファンクションコントロール」（p16）の“SRC Select”項目で設定します。
- CDが挿入されていないときや、CDチェンジャーなど別売品が接続されていないときは、そのソースには切り替わりません。
- iPodを付属のiPod接続ケーブルで接続していると、“USB”表示は認識後に“iPod”になります。iPodについては「iPodについて」（p38)をご覧ください。
- 外部プレーヤーを選択時は次のように表示されます。
  - “CD Changer”：CDチェンジャー
  - “EXT MEDIA”：KCA-iP501（別売品）で接続したiPod
  - “HDD EXT”：HDX-710などの音楽ファイル（KSF）
- KCA-iP501（別売品）で接続したiPodのプレイのしかたはKCA-iP501の取扱説明書をご覧ください。
- HDX-710などの音楽ファイル（KSF）のプレイのしかたは「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」(p22)をご覧ください。
- LX-BUS接続したテレビでは、USB（iPod）ソースはCDソースと認識され、表示や音声案内でもCDソースとして扱われます。
- 内蔵AUXソースに切り替えるには、「ファンクションコントロール」（p16）の“Built in AUX”項目を“ON”に設定している必要があります。
- 外部AUX（“AUX EXT”）を使用するためには、別売品のKCA-S220A、CA-C1AXまたはCA-C2AXが必要です。
- “AUX”表示やKCA-S220Aを使用した“AUX EXT”表示は「AUXネーム選択」（p25）で替えることができます。

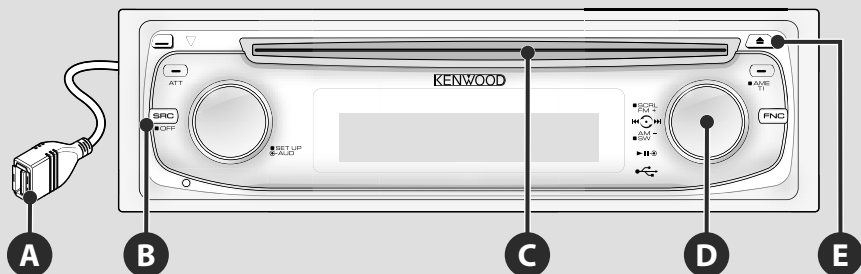
C

音質などを調整します

オーディオノブ❸を押して調整項目を選び、次にオーディオノブ❸を回して調整します。

調整項目は次の順に切り替わります。

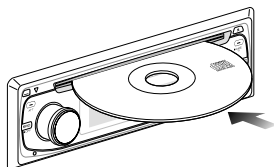
- dB EQUALIZER：音楽ジャンルに合ったイコライザーカーブを設定します。
- ▼ BASS LEVEL：低音域の音量を調整します。（調整範囲：–8〜+8）
- ▼ MIDDLE LEVEL：中音域の音量を調整します。（調整範囲：–8〜+8）
- ▼ TREBLE LEVEL：高音域の音量を調整します。（調整範囲：–8〜+8）
- ▼ BALANCE：左右の音量バランスを調整します。（調整範囲：左15〜右15）
- ▼ FADER：前後の音量バランスを調整します。（調整範囲：リア15〜フロント15）
- ▼ 通常の表示

- 音質調整は各種の設定により表示される項目が変わります。また、より詳細に設定することもできます。詳しくは「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）をご覧ください。
- イコライザーカーブは以下の中から設定します。
  USER、ROCK、VOCAL、EASY、DANCE、JAZZ、NATURAL
  “USER”は低音域、中音域および高音域で調整した値が呼び出されます。
- コントロールノブ❹または FNC ボタン❺を押すと、すぐに通常の表示に戻せます。

ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く

C E

CD/オーディオファイルをプレイします

ディスク挿入口🅒にディスクを挿入すると、
差し込んだディスクがプレイされます。

ディスクを取り出します

イジェクトボタン🅔を押します。ディスクが排出されます。

- ディスクは水平に差し込んでください。
- ディスクが入っているときには IN インジケーターが点灯します。インジケーター表示は「ディスプレイタイプ設定」（p18）のステータス表示をご覧ください。
- ディスクがすでに入っているときには、[SRC]ボタン🅑でCDソースに切り替えるとプレイされます。ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p11）をご覧ください。
- 通常のCDのほかに、オーディオファイルが収録されたCD-R/CD-RWをプレイできます。
  プレイできるオーディオファイルの種類、フォーマットなどについては、「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。
- その他のいろいろなプレイ方法については、「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」（p22）をご覧ください。

D

プレイ/ポーズします

コントロールノブ🅓を一度押すと、プレイを一時停止します。
もう一度押すと、プレイを再開します。

D

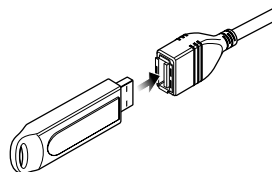
早送り/早戻しします

コントロールノブ🅓を右に押し続けると、押している間、曲が早送りされます。
コントロールノブ🅓を左に押し続けると、押している間、早戻しされます。

- オーディオファイルをプレイしているときは、早送り/早戻し中に音は出ません。
- KSF（別売品のHDX-710などの音楽ファイル）をプレイ中は、早送り/早戻しできません。

A E

USBデバイス内のオーディオファイルをプレイします

USBメモリーやiPodなどのUSBデバイスを接続すると、
USBデバイスのプレイが始まります。

USBデバイスを取り外します

イジェクトボタンⒺを2秒以上押してリムーブモードにします。
“USB REMOVE”と表示されたら、USBデバイスを取り外します。

● リムーブモードにしないでUSBデバイスを取り外すと、 USBデバイス内のデータが破損する場合があります。

● USBデバイスがすでに接続されているときには、[SRC]ボタンⒷでUSB/iPodソースに切り替えるとプレイします。ソースの切り替え方法は「ソースを切り替えます」（p11）をご覧ください。
● iPodの接続は付属のiPod接続ケーブルを使用してください。iPodについては「iPodについて」（p38)をご覧ください。
● USBデバイスを接続していないときに、USBソースにすると、"No Device"と表示されます。
● プレイをストップしたあとで、再びプレイするとストップした曲からプレイを再開します。USBデバイスを取り外した場合でも、USBデバイスの保存内容が変わっていなければ、ストップした曲からプレイを再開します。
● プレイできるオーディオファイルの種類､使用できるUSBデバイスの種類などの詳細については､「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。
● 使用できるUSBデバイスの種類や接続方法については、「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。
● USBデバイスのコネクターは、奥まで確実に差し込んでください。
● その他のいろいろなプレイ方法については、「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」（p22）をご覧ください。

D

プレイする曲を選びます

コントロールノブⒹを右に動かすと、次の曲がプレイされます。

コントロールノブⒹを左に動かすと、プレイ中の曲の先頭／前の曲がプレイされます。

● コントロールノブを回して、曲を素早く探すこともできます。詳しくは「ミュージックセレクト」（p22）をご覧ください。

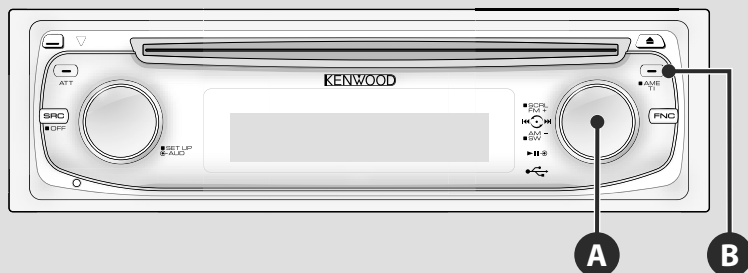
D

プレイするフォルダ/ディスク（ディスクチェンジャー中）を選びます

コントロールノブⒹを上側へ押すと、次のフォルダ/ディスクの曲がプレイされます。

コントロールノブⒹを下側へ押すと、前のフォルダ/ディスクの曲がプレイされます。

● iPodおよびMusic　Editorメディアでは、「ミュージックセレクト」（p22）の操作のあとに使用できます。

ラジオを聴く

A バンドを切り替えます

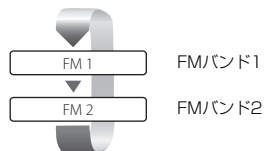
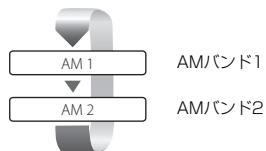
コントロールノブⒶを上に動かすと、受信バンドが次のように切り替わります。

FMバンド1

FMバンド2

コントロールノブⒶを下に動かすと、受信バンドが次のように切り替わります。

AMバンド1

AMバンド2

- ステレオ受信中は ST インジケーターが点灯します。インジケーター表示は「ディスプレイタイプ設定」（p18）のステータス表示をご覧ください。
- その他、ラジオのいろいろな操作については、「ラジオを聴く」(p21)をご覧ください。

A

放送局を選択します

コントロールノブⒶを左右に動かすと、受信状態の良い放送局を自動的に受信します。

- 選局方法は設定によって、周波数を１ステップずつ変えたり、メモリーしている放送局を順に受信することができます。詳しくは「チューニングモード」（p21）をご覧ください。

B

放送局を自動的にプリセットします（オートメモリー）

ボタンⒷを2秒以上押すと、受信状態の良い放送局を自動的にメモリーします。

- 6局メモリーするか、周波数を1周すると自動的に終了します。

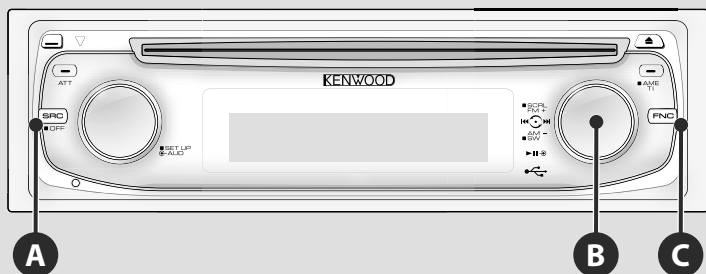
A

プリセット局を受信します（プリセットチューニング）

コントロールノブⒶを回してプリセット局リスト表示にします。

コントロールノブⒶを回して呼び出したいプリセット局を選択して、コントロールノブⒶを押すとメモリーされている放送局を選局します。

- プリセット局を受信するには、あらかじめ放送局がメモリーされている必要があります。メモリー方法については、「放送局を自動的にプリセットします」（p15）または「マニュアルメモリー」（p21）をご覧ください。

ファンクションコントロール

ファンクションコントロール

1. FNC ボタン❸を押してファンクションコントロールモードにします。

2. コントロールノブ❸と FNC ボタン❸で設定する項目を選択します。

動作	操作方法
項目を移動する	コントロールノブ❸を回す。
項目を選択する	コントロールノブ❸を押す。
前の項目に戻る	FNC ボタン❸を押す。

ファンクションアイテムには、次の項目があります。

表示	アイコン	操作方法
"Menu"	"MENU"	環境の設定ができます。17ページの表をご覧ください。
"Display Select"	"DISP"	表示の設定ができます。「ディスプレイコントロール」(p18)をご覧ください。
"Preset Memory"	"P.MEM"	放送局をメモリーできます。「マニュアルメモリー」（p21）をご覧ください。
"File Scan" など	"SCAN"	CDやオーディオファイルなどのプレイ方法を設定できます。「プレイファンクション」(p23）をご覧ください。
"Return"	" ⏎ "	前の項目に戻る

3. コントロールノブ❸を回して設定値を選択して、コントロールノブ❸を押すと決定します。
   "MENU"項目では下記の操作で設定します。
   ：コントロールノブ❸を左右に動かします。
   ：コントロールノブ❸を1秒上または2秒以上押して設定モードにします。

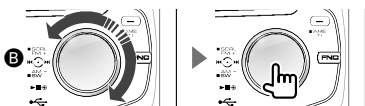
4. FNC ボタン❸を1秒以上押してファンクションコントロールモードを終了します。

時計を調整する場合の操作例

スタンバイソース中（SB）にメニューから"Clock Adjust"項目を選択します。

1 スタンバイ ソースに切り替えます

2 ファンクションコントロールモードにします

3 "Menu"項目を選択します

4 "Clock Adjust"項目を選択します

5 時刻合わせを開始します

時計表示になるまで押し続けます。
時計の調整方法は「時刻合わせ」（p32）をご覧ください。

“MENU”（メニュー）項目で設定する機能は、次の項目があります。

表示	設定	操作	設定概要	ソース	ページ
Security Set/ Security Clear			セキュリティコードの設定と解除をします。	SB	30, 31
SRC Select	1*/2		ソースの選択方法を設定します。	SB	43
iPod Mode	OFF/ ON*		ミュージックセレクトの操作方法をiPodのような操作にします。	iPod	42
Beep	OFF/ ON*		操作音の有無を設定します。	SB	42
Clock Adjust			時刻を設定します。	SB	32
Date Adjust			日付を設定します。	SB	32
Display	OFF/ ON*		操作しないときは、表示部を消します。	—	42
Dimmer	OFF/ ON*		車両のライトスイッチに連動して表示部を減光するかを設定します。	SB	42
ILM Dimmer	AUTO*/ MNAL1/ MNAL2/ OFF		車両のライトスイッチに連動してイルミネーションを減光するか、常時減光するかを設定します。	SB	42
ILM Effect	OFF/ ON*		本機の操作に連動してイルミネーションの輝度を変えるかを設定します。	SB	42
ILM MSC SYNC	OFF*/ ON		音量に連動してイルミネーションの輝度を変えるかを設定します。	—	42
SWPRE	Rear*/ Sub-W		プリアウトの出力を設定します。	SB	43
AMP	OFF/ ON*		内蔵アンプのオン/オフ設定をします。	SB	42
Zone 2	Rear*/ Front		デュアルゾーン機能の内蔵AUX入力音声の出力先を設定します。	2ZONE	27
Supreme	OFF/ ON*		Supreme機能のオン／オフを設定します。	AF	43
Seek Mode	Auto1*/ Auto2/ Manual		放送局の選択方法（チューニングモード）を設定します。	Tuner	21
MONO	OFF*/ ON		モノラル音声で受信します。	FM	21
Name Set			FM/AM放送局やCD、AUXソースに名前を付けます。		24, 25
カンジ ユウセン	OFF/ ON*		テキスト表示時に漢字を優先して表示するか設定します。	SB	43
Scroll	Auto*/ Manual		テキスト表示を自動的にスクロールするか設定します。	—	43
NAV Guide	OFF*/ ATT/ INT		接続されているナビの音声ガイド時の設定をします。	SB	43
Built in AUX	OFF*/ ON		ソース選択時に内蔵AUXを表示するか設定します。	SB	42
CD Read	1*/2		CDの読み取りモードを設定します。	SB	42
Audio Preset			オーディオ設定の登録·呼び出しをします。	SB以外	28, 29
DEMO Mode	OFF/ ON*		デモンストレーションの設定をします。	—	31

* お買い上げ時の設定状態を示します。

SB：スタンバイ中に設定できます。

SB以外：スタンバイ以外のときに設定できます。

Tuner：Tunerソース中に設定できます。

FM：FMを受信中に設定できます。

AF：USB（iPodを除く）/CDのオーディオファイルソース中に設定できます。

iPod：iPodソース中に設定できます。（iPodを接続したときのUSBソース）

2ZONE：「オーディオセットアップ」（p28）の“2 ZONE”項目が“ON”中に設定できます。

- セキュリティコードが設定されているときは、“Security Set”のかわりに“Security Clear”（セキュリティコード消去）が表示されます。
- AUXソースを使用しないときは、“Built in AUX”は“OFF”に設定してください。
- “NAV Guide”項目を“INT”に設定して、ナビ音声ガイドが割り込んだときに、ナビゲーションシステムでKSF(別売品のHDX-710などの音楽ファイル)を再生していると、ナビゲーションによってはKSFの音声がナビ音声ガイドと一緒に聞こえる場合があります。

ディスプレイコントロール

ディスプレイに表示する情報を設定します。

ディスプレイタイプ設定

ディスプレイの表示タイプを設定します。

1 **[FNC]ボタンを押し▶ "DISP" ▶ "TYPE" と選択します**

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 **ディスプレイタイプを切り替えます**

次の順に切り替わります。

ディスプレイタイプA
"TYPE [A]"

ディスプレイタイプB
"TYPE [B]"

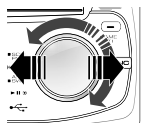
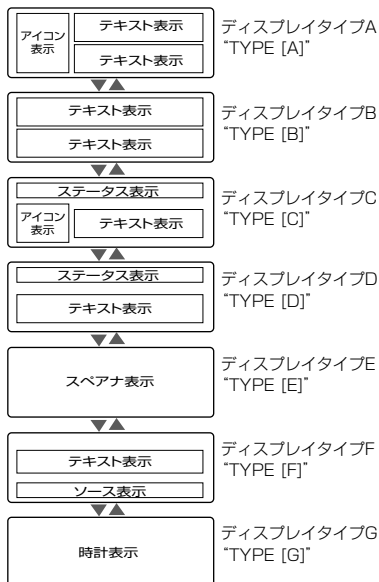
ディスプレイタイプC
"TYPE [C]"

ステータス表示
テキスト表示

ディスプレイタイプD
"TYPE [D]"

ディスプレイタイプE
"TYPE [E]"

ディスプレイタイプF
"TYPE [F]"

時計表示

ディスプレイタイプG
"TYPE [G]"

3 **コントロールノブを押して終了します**

テキスト表示設定

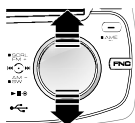
テキスト表示を切り替えます。

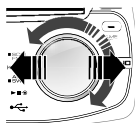
1 **ディスプレイタイプを A、B、C、D または F にします**

「ディスプレイタイプ設定」（p18）をご覧ください。

2 **[FNC]ボタンを押し▶ "DISP" ▶ "TEXT" と選択します**

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 **設定する段を選択します（ディスプレイタイプ A および B のみ）**

設定できる段が変わります。
設定可能な段のテキストが点滅します。

4 **表示を切り替えます**

表示できる項目は「テキスト表示」（p19）をご覧ください。

5 **コントロールノブを押して終了します**

テキスト表示

スタンバイ中

表示	情報
“Source Name”	スタンバイ
“Clock”	時計表示
“Date”	日付表示
“Blank”	何も表示しません

FM/AM受信中、交通情報受信中

表示	情報
“SNPS”	ステーションネーム
“Frequency”	バンド+周波数表示
“Speana/Clock”	スペクトラムアナライザー／時計表示
“Clock”	時計表示
“Date”	日付表示
“Blank”	何も表示しません

CD/ディスクチェンジャープレイ中

表示	情報
“Disc Title”	ディスクタイトル
“Track Title”	トラックタイトル
“P-Time”	トラック番号+プレイ時間
“DNPS”	ディスクネーム
“Speana/Clock”	スペクトラムアナライザー／時計表示
“Clock”	時計表示
“Date”	日付表示
“Blank”	何も表示しません

オーディオファイルプレイ中

表示	情報
“Title/Artist”	曲タイトル／アーティスト名
“Album/Artist”	アルバム名／アーティスト名
“Folder Name”	フォルダ名
“File Name”	ファイル名
“P-Time”	ファイル番号+プレイ時間
“Speana/Clock”	スペクトラムアナライザー／時計表示
“Clock”	時計表示
“Date”	日付表示
“Blank”	何も表示しません

AUX/AUX EXT中

表示	情報
“Source Name”	AUXネーム
“Speana/Clock”	スペクトラムアナライザー／時計表示
“Clock”	時計表示
“Date”	日付表示
“Blank”	何も表示しません

- 選択した情報がない場合は、代替の情報が表示されます。
- 表示するタイプや行などにより選べない項目があります。
- iPodのプレイ中にフォルダ名表示を選択すると、現在選択中のブラウズ項目に沿った名称が表示されます。

スペアナ表示設定

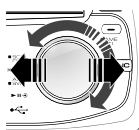
ディスプレイタイプEのスペクトラムアナライザーの表示を切り替えます。

1 ディスプレイタイプを E にします

「ディスプレイタイプ設定」（p18）をご覧ください。

2 FNCボタンを押し▶“DISP”▶“GRAPH”と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 スペアナ表示を設定します

2種類で切り替わります。

4 コントロールノブを押して終了します

サイドアイコン表示設定

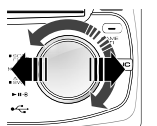
ディスプレイタイプAのサイドアイコンの表示を切り替えます。

1 ディスプレイタイプを A にします

「ディスプレイタイプ設定」（p18）をご覧ください。

2 [FNC]ボタンを押し▶ “DISP” ▶ “SIDE” と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 サイドアイコンの表示を設定します

テキストアイコンとソースアイコンが切り替わります。

4 **コントロールノブを押して終了します**

操作パネルの取り外し

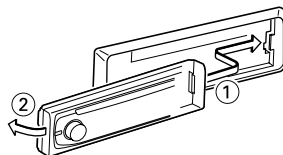
操作パネルを取り外します。

パネルのロックが解除されて、パネルが取り外せます。

- パネルを取り外すと電源がオフになります。
- パネルは精密な部品のため、振動や落下などの衝撃により損傷する場合があります。取り外したパネルは、大切に保管してください。
- 取り外したパネルは、以下のような場所で保管しないでください。
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿度が高い場所
  - ほこりのかかる場所

操作パネルの取り付け

操作パネルを取り付けます。

1 操作パネルを本体に合わせます

パネル右側の凹部と本体右側の凸部を合わせます。

2 操作パネルを取り付けます

パネル左側を本体に合わせてロックします。
パネルが取り付き、本機が使用可能となります。

- 取り外した操作パネルを取り付ける前にコネクター端子に汚れやほこりがないこと、取り外したパネルと本体と間に異物がないことを確認してください。

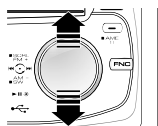
ラジオを聴く

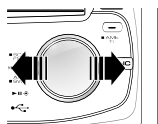
FM/AM放送を受信します。また、各バンドごとに6局までの放送局をメモリーしておくこともできます。

● 基本的なFM/AM放送の聴きかたは「ラジオを聴く」（p14）をご覧ください。

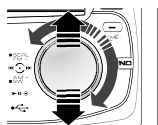
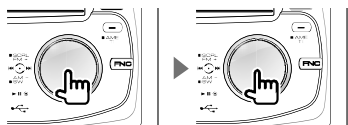
マニュアルメモリー

受信中の放送局をメモリーします。

1 バンドを選びます

上に動かすとFMバンド1/2、下に動かすとAMバンド1/2に切り替わります。

2 放送局を選びます

3 FNCボタンを押し▶"P.MEM"を選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

4 メモリーする番号を選びます

5 メモリーする番号を決定します

2回押します。

プリセットメモリーを中止するときは... FNCボタンを押します

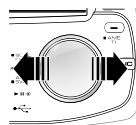
● オートメモリーではメモリーされない放送局を記憶したいときなどに便利です。

チューニングモード

コントロールノブを左右に動かして選局するときのチューニングモードを設定します。
チューニングモードには、次の3種類があります。

1 FNCボタンを押し▶"MENU"▶"Seek Mode"と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 チューニングモードを選びます

チューニングモードには、次の3種類があります。

表示	操作
"Auto1"	受信状態の良い放送局を自動的に選びます。（オート1）
"Auto2"	メモリーされている放送局を番号順に受信します。（オート2）
"Manual"	押すたびに、周波数が1ステップずつ変わります。（マニュアル）

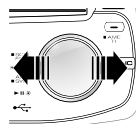
3 FNCボタンを押して終了します

モノラルモード（FM放送を受信中のみ）

FMステレオ放送の受信状態が良くないときにモノラルモードにすると、ノイズが軽減されて聴きやすくなる場合があります。

1 FNCボタンを押し▶"MENU"▶"MONO"と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 モノラルモードをオン/オフします

3 FNCボタンを押して終了します

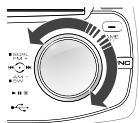
ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く

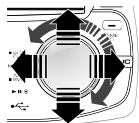
CDやオーディオファイル（CD-ROM/R/RW、USBデバイス、Music　Editorメディア、およびiPod）、KSF（別売品のHDX-710などの音楽ファイル）を本機や別売品のディスクチェンジャーで、いろいろな機能を使ってプレイできます。

- CDとオーディオファイルの基本的な聴きかたは「ミュージックディスクやオーディオファイルを聴く」（p12）をご覧ください。

ミュージックセレクト
（オーディオファイル、CDのみ）

プレイ中のドライブやメディアから聴きたい曲を探します。

1 ミュージックセレクトモードにします

曲のリストが表示されます。

2 曲を探します

iPodの操作方法（“iPod Mode : ON”）

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す。
項目を選択する	コントロールノブを押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを上側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを上側に1秒以上押す。

オーディオファイルの操作方法

動作	操作
項目を移動する	コントロールノブを回す、または上下に押す。
項目を選択する	コントロールノブを右側に押す。
前の項目に戻る	コントロールノブを左側に押す。
最初の項目に戻る	コントロールノブを左側に1秒以上押す。

CDの操作方法

動作	操作
トラックを移動する	コントロールノブを回す、または上下に押す。
トラックを選択する	コントロールノブを押す。
最初のトラックに戻る	コントロールノブを左側に1秒以上押す。

表示している項目の横に"◄"や"►"がある場合は、この項目の前や後ろにも項目があることを示しています。

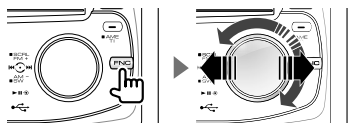
ミュージックセレクトモードを終了するときは…
FNCボタンを押します

- ランダムプレイ中またはスキャンプレイ中は、ミュージックセレクトは行えません。
- iPodを接続したときの操作方法は、「ファンクションコントロール」（p16）の“iPod Mode”項目で設定します。
- iPodおよびMusic Editorメディアの表示について

表示	選曲
“All ART”	全てのアーティスト
“All ALB”	全てのアルバム
“All GEN”	全てのジャンル
“All COM”	全ての作曲者（iPodのみ）

プレイファンクション

リピートプレイやスキャンプレイなどの設定をします。

1 プレイ機能を設定する

オーディオファイル

表示／アイコン	機能
“File Scan” “SCAN”	現在のフォルダやジャンルなどのオーディオファイルの最初の10秒間を次々にプレイします。
“Folder RDM” “RDM”	現在のフォルダやジャンルなどのオーディオファイルの中からランダムにプレイします。
“File Repeat” “FiREP”	現在のオーディオファイルを繰り返しプレイします。
“Folder Repeat” “FoREP”	現在のフォルダの中のオーディオファイルを繰り返しプレイします。

CD、ディスクチェンジャーなどの外部プレーヤー

表示／アイコン	機能
“(Track) Scan” “SCAN”	現在のCD/MDの曲の最初の10秒間を次々にプレイします。
“Disc Random” “RDM”	現在のCD/MDの中の曲からランダムにプレイします。
“Magazine RDM” “M.RDM”	ディスクチェンジャーの中の曲からランダムにプレイします。
“(Track) Repeat” “T.REP”	現在のCD/MDの曲を繰り返しプレイします。
“Disc Repeat” “D.REP”	現在のCD/MDを繰り返しプレイします。
“Repeat Select” “REP”	KSFプレイ中は、押すたびにリピートプレイが次のように替わります。 ファイルリピート → フォルダリピート → リピートオフ

2 選択した項目を設定する

押すたびにオンとオフに切り替わります。

3 FNCボタンを押して終了します

- 選択しているソースで使用できる機能のアイコンのみが表示されます。
- ランダムプレイ中は、コントロールノブを右に動かすと、次の曲をランダムに選択します。
  KSFでは、コントロールノブを上下に動かすと、次の曲をランダムに選択します。

タイトル/テキストスクロール

タイトル/テキストをスクロールさせます。

- スクロールできるのは次のタイトル/テキストです。
  - ディスクタイトル/トラックタイトル
  - 曲タイトル/アルバム名/アーティスト名/フォルダ名/ファイル名
- 「ファンクションコントロール」（p16）の“Display”項目を“OFF”に設定しているとスクロール途中でも表示が消える場合があります。

ネームセット

FM/AM放送局、本機内蔵のCDプレーヤーまたは別売品のCDチェンジャーにセットされているCDに名前を付けて表示させることができます。また、AUX入力に付ける名前を選択することができます。

DNPS（ディスクネームプリセット）/ SNPS（ステーションネームプリセット）

CD、FM/AM放送局に名前を付けます。

1 名前を付けるソースをプレイします

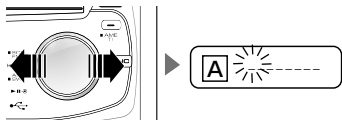
- MDやオーディオファイルのメディアにDNPSを行うことはできません。
- マガジンランダムプレイ中はDNPSは行えません。マガジンランダムプレイ以外を選択しておいてください。
- 交通情報モード中に受信している放送局にも同様の操作で名前を付けることができます。

2 [FNC]ボタンを押し▶ "MENU" ▶ "Name Set"と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 DNPS/SNPSを開始します

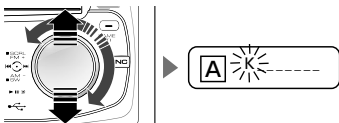
画面が切り替わるまで押し続けます。

4 文字を入力する位置にカーソルを移動します

5 文字の種類を選びます

入力できる文字が次の順に切り替わります。

表示	文字種
"A"	英大文字
"a"	英小文字
"ア"	カタカナ
"あ"	ひらがな
"1"	数字・記号

▶ 漢字入力方法については、「漢字の入力」（p25）をご覧ください。

6 文字を選びます

名前は8文字まで登録できます。

7 手順4〜6を繰り返して、すべての文字を入力します

8 [FNC]ボタンを押して終了します

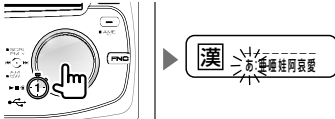
- 10秒以上何も操作しないと、その時点で名前が確定されます。
- CDは、CDトラック数（曲数）と総録音時間で識別されます。このため、これらが同じCDの場合には識別できません。
- 登録した名前を変更するには、変更したいCDや放送局の名前を表示させたあと、同様の操作で変更できます。
- SNPSで登録できる局数は、FM放送局とAM放送局の合計で30局です。
- DNPSは内蔵のCDプレーヤーと別売品のCDチェンジャーを合わせて50枚まで登録できます。
- バッテリーから本機を外すとDNPS/SNPSで設定した名前は消去されます。

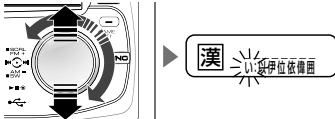
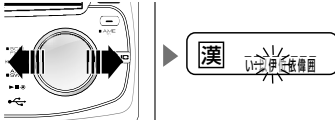
漢字の入力

ディスクネーム/ステーションネームに漢字を入力して表示させることができます。

1 **DNPS/SNPSを開始します**

「DNPS（ディスクネームプリセット）/SNPS（ステーションネームプリセット）」（p24）の手順1～5をご覧ください。

2 **漢字入力モードにします**

"漢"と表示されるまで押し続けます。

3 **漢字の読みを選びます**

4 **入力する漢字を選びます**

カーソルが読みの位置から漢字の位置に移動します。

漢字列を変えるには…

カーソルが漢字の位置にあるときに押すと、漢字列が変わります。

5 **漢字を入力します**

カーソルがある位置の漢字が入力され、漢字入力モードが終了します。

6 **手順2～5を繰り返して、すべての漢字を入力します**

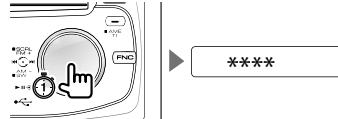
漢字入力を中止するときは…

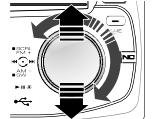
AUXネーム選択

ソースをAUXに切り替えたときに表示される名前（AUXネーム）を設定します。

1 **AUX ソースにする▶［FNC］ボタンを押し▶"MENU"▶"Name Set"と選択します**

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 **AUXネーム選択を開始します**

現在のAUXネームが表示されるまで押し続けます。

3 **名前を選びます**

AUXネームが次の順で切り替わります。

表示
"AUX" / "AUX EXT"
"DVD"
"PORTABLE"
"GAME"
"VIDEO"
"TV"

4 **［FNC］ボタンを押して終了します**

- 10秒以上何も操作しないと、AUXネーム選択は自動的に終了します。
- AUXネームを付けられるのは、内蔵AUXまたは別売品のKCA-S220Aを使用した外部AUXのみです。

ネームセット

オーディオコントロール

音響効果などを設定します。

オーディオコントロールの詳細設定

オーディオコントロールでは次の項目を設定できます。

- 設定方法は「音質などを調整します」(p11)をご覧ください。
- 低音域、中音域および高音域の設定は、ソースごとに設定できます。
- "SUB-W LEVEL"を調整するには下記の設定が必要です。
  - 「ファンクションコントロール」(p16)の"SWPRE"項目を"Sub-W"
  - 「サブウーファー出力コントロール」(p27)をオン
  - 「オーディオセットアップ」(p28)の"2 ZONE"項目をオフ
- デュアルゾーン機能の設定により調整できる項目が次の通りに変わります。デュアルゾーン機能の設定については「オーディオセットアップ」(p28)をご覧ください。

デュアルゾーン	REAR VOLUME	FADER	SUB-W LEVEL
機能オン	○	×	×
機能オフ	×	○	○

イコライザーカーブの設定中は効果の調整ができます。

1秒以上押すたびに、次の順に切り替わります。イコライザーカーブが"ROCK"～"JAZZ"のときに調整できます。

表示	設定内容
"HIGH"	イコライザー効果大
"LOW"	イコライザー効果小

低音、中音、高音の調整をきめ細かく設定できます。

1 詳細設定を開始します

"BASS LEVEL"、"MIDDLE LEVEL"、または"TREBLE LEVEL"を選択しているときに、1秒以上押すと"*** FRQ"と表示されます。

2 調整する項目を選びます

次の順に切り替わります。

"BASS LEVEL"で押したとき

表示	設定内容
"BASS FRQ"	調整する低音域の中心周波数
"BASS Q FACTOR"	低音域のクォリティーファクター
"BASS EXT"	低音中心周波数伸張

“MIDDLE LEVEL”で押したとき

表示	設定内容
“MIDDLE FRQ”	調整する中音域の中心周波数
“MIDDLE Q FACTOR”	中音域のクォリティーファクター

“TREBLE LEVEL”で押したとき

表示	設定内容
“TREBLE FRQ”	調整する高音域の中心周波数

3 各項目を調整します

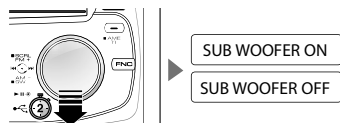
各項目の設定範囲は次のとおりです。

項目	設定範囲
BASS FRQ	40/50/60/70/80/100/120/150（Hz）
BASS Q FACTOR	1.00/1.25/1.50/2.00
BASS EXT	OFF/ON
MIDDLE FRQ	0.5/1.0/1.5/2.0（kHz）
MIDDLE Q FACTOR	1.00/2.00
TREBLE FRQ	10.0/12.5/15.0/17.5（kHz）

4 詳細設定を終了します

- 各調整項目については「Help? 用語集」（p40）をご覧ください。
- イコライザーカーブは、ソースごとに設定できます。
- イコライザーカーブの“USER”の値は、低音域、中音域および高音域で調整した値が呼び出されます。
  低音域、中音域および高音域の設定方法については「音質などを調整します」（p11）をご覧ください。

サブウーファー出力コントロール

サブウーファー出力のオン/オフを設定します。

表示が変わるまで押し続けます。

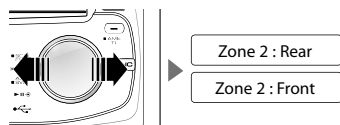
- 「ファンクションコントロール」（p16）の “SWPRE” 項目を “Sub-W” に設定している必要があります。
- 「オーディオセットアップ」(p28) の“2 ZONE”項目を“OFF”に設定している必要があります。

デュアルゾーン設定

デュアルゾーン機能がオンに設定しているときの内蔵AUX入力音声（サブソース）の出力先（フロント/リア）を設定します。

1 [FNC]ボタンを押し▶ “MENU” ▶ “Zone 2” と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 出力先を選択します

3 [FNC]ボタンを押して終了します

- 上記の操作の前に、デュアルゾーン機能をオンにしておいてください。デュアルゾーン機能の設定については「オーディオセットアップ」（p28）をご覧ください。
- メインソースは [SRC] ボタンで切り替えます。
- デュアルゾーン時には、本設定にかかわらず、フロントスピーカーの音量はボリュームノブで調整します。また、リアスピーカーの音量は「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）の“REAR VOLUME”項目で調整します。
- オーディオコントロールの各種の設定は、サブソースに対しては無効です。

オーディオセットアップ

音量オフセットやデュアルゾーン機能などを設定します。

1 オーディオセットアップを開始します

2 設定する項目を選びます

次の順に切り替わります。

項目	説明
HPF-F	フロントのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
HPF-R	リアのハイパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
LPF	ローパスフィルターのカットオフ周波数を設定します。
SW PHASE	サブウーファーの位相を設定します。
VOL-OFFSET	各ソースごとの、音量の差を調整します。
NAV VOLUME	ナビ音声ガイド時の音量を設定します。
2 ZONE	デュアルゾーン機能のオン/オフを設定します。

3 各項目を設定します

各項目の設定範囲は次のとおりです。

項目	設定範囲
HPF-F/ HPF-R	Through（フィルターオフ）/80/ 100/120/150/180（Hz）
LPF	60/80/120（Hz）/ Through（フィルターオフ）
SW PHASE	Reverse（180°）/Normal（0°）
VOL-OFFSET	−8 ～ ±0（AUX：−8 ～ +8）
NAV VOLUME	0 ～ 25
2 ZONE	OFF/ON

4 オーディオセットアップを終了します

- “VOL-OFFSET”でソースごとに音量オフセットを設定しておくと、ソースを切り替えてもほぼ同じ音量で聴くことができます。
- “NAV VOLUME”は「ファンクションコントロール」（p16）の“NAV Guide”項目を“INT”に設定している必要があります。
- “2 ZONE”を“ON”に設定しているときは次の項目は調整できません。
  - “HPF-F”、“HPF-R”、“LPF”、“SW PHASE”
  - 「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）の “SUB-W LEVEL”、“FADER”
- デュアルゾーン機能を使うと、本機でプレイするソースとAUXに入力された音声を前後のスピーカーから別々に出力できます。詳しくは「Help? 用語集」（p40）をご覧ください。
- “LPF”および“SW PHASE”を調整するには下記の設定が必要です。
  - 「ファンクションコントロール」（p16）の “SWPRE” 項目を “Sub-W”
  - 「サブウーファー出力コントロール」（p27）をオン
  - “2 ZONE” 項目をオフ
- “SW PHASE”は、“LPF”項目が“Through”以外に設定している必要があります。

オーディオプリセット

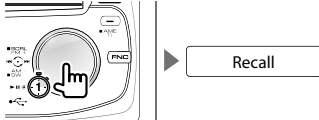
オーディオコントロールの設定をメモリーします。ここでメモリーした値は、リセットボタンを押しても消去されません。

1 メモリーするオーディオコントロール設定をします

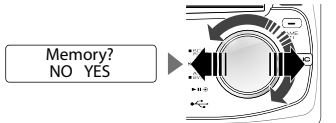
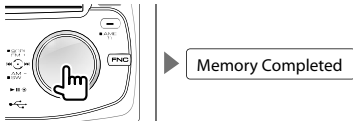
「音質などを調整します」（p11）、「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）、および「オーディオセットアップ」（p28）を参照してください。

2 [FNC]ボタンを押し▶“MENU”▶“Audio Preset”と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 **オーディオプリセットモードにします**

"Recall"と表示されるまで押し続けます。

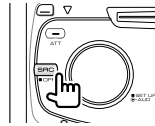
4 **"Memory"を選択します**

5 **"YES"を選択します**

6 **メモリーします**

7 **[FNC]ボタンを押して終了します**

- メモリーできるオーディオコントロール設定は1組です。ソース別のメモリーはできません。
- リセットを押したときは、メモリーした値が「オーディオコントロールの詳細設定」と「オーディオセットアップ」の初期設定値になります。
- メモリーできるのは「音質などを調整します」、「オーディオコントロールの詳細設定」、および「オーディオセットアップ」の設定項目です。ただし下記の項目はメモリーされません。
  - ボリューム
  - "BALANCE"、"FADER"、"REAR VOLUME"
  - "VOL-OFFSET"、"2 ZONE"

オーディオプリセットの呼び出し

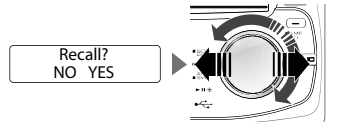
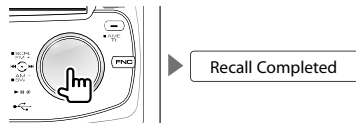
オーディオプリセットメモリーでメモリーした設定を呼び出します。

1 **ソースを選択します**

2 **[FNC]ボタンを押し▶"MENU"▶"Audio Preset"と選択します**

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 **オーディオプリセットモードにし、"Recall"を選択します**

"Recall"と表示されるまで押し続けます。
もう一度押します。

4 **"YES"を選択します**

5 **呼び出します**

6 **[FNC]ボタンを押して終了します**

- オーディオプリセットを呼び出すと、設定していた「音質などを調整します」（p11）、「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）および「オーディオセットアップ」（p28）の設定値がメモリーしていた値に置き換わります。

メニュー（MENU）

各種の機能を設定します。

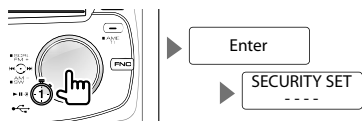
セキュリティコードの設定

4桁の暗証番号を設定して、盗難を抑制します。

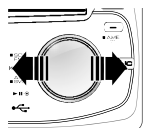
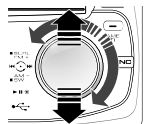
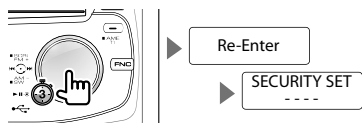
- 設定したセキュリティコードの変更・消去には、セキュリティコードの入力が必要です。セキュリティコードは必ずメモしておくことをお勧めします。
- セキュリティコード機能は“DEMO Mode”項目が“OFF”のときに設定できます。（p31）

1 スタンバイ ソースにする▶FNCボタンを押し▶“MENU”▶“Security Set”と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

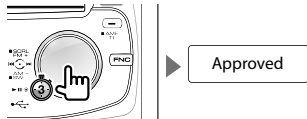
2 セキュリティコードセットを開始します

“Enter”と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

4 決定します

“Re-Enter”と表示されるまで押し続けます。

5 もう一度入力します

手順3と同じ方法で、同じセキュリティコードを入力します。

6 決定します

“Approved”と表示されるまで押し続けます。

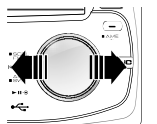
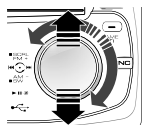
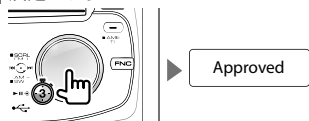
7 FNCボタンを押して終了します

- 手順5で入力したセキュリティコードが手順3で入力したセキュリティコードと異なる場合は、手順3からやりなおすことになります。
- セキュリティコードが設定されると、リセットボタンを押したときやバッテリーの接続を切った場合にセキュリティコードの入力が必要となります。詳しくは、「セキュリティコードの入力」（p30）をご覧ください。

セキュリティコードの入力

セキュリティコードが設定されている場合、リセットボタンを押した後や本機をバッテリーから外した後で初めて使うときには、電源をオンにするためにセキュリティコードを入力する必要があります。

1 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

2 決定します

“Approved”と表示されるまで押し続けます。

- 入力したセキュリティコードが間違っていると電源がオフになります。このようなときは、[SRC]ボタンを押して電源をオンにしてから再度セキュリティコードを入力してください。

セキュリティコードのクリア

セキュリティコードの設定を解除します。

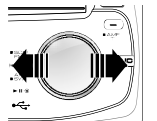
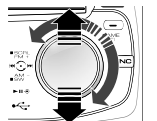
1 スタンバイ ソースにする▶[FNC]ボタンを押し▶“MENU”▶“Security Clear”と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 セキュリティコードクリアを開始します

“Enter”と表示されるまで押し続けます。

3 セキュリティコードを入力します

入力する桁を選択するには

入力する数字を選択するには

「セキュリティコードの設定」(p30)で設定したセキュリティコードを入力します。

4 決定します

“Clear”と表示されるまで押し続けます。

5 [FNC]ボタンを押して終了します

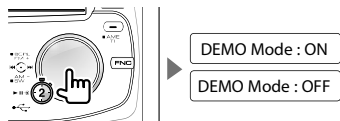
- 入力したセキュリティコードが間違っていると“Error”と表示されます。再度手順3からの操作を行って正しいコードを入力してください。

デモンストレーション設定

デモンストレーションモードを設定します。

1 [FNC]ボタンを押し▶“MENU”▶“DEMO Mode”と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 デモンストレーション機能を設定します

2秒以上押すたびに、デモンストレーション機能がオン/オフします。

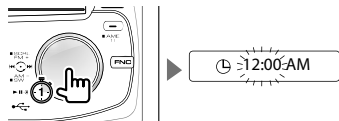
3 [FNC]ボタンを押して終了します

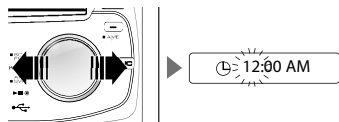
時刻合わせ

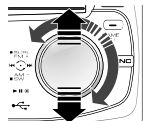
本機の時計を合わせます。

1 スタンバイ ソースにする▶ FNC ボタンを押し▶ “MENU” ▶ “Clock Adjust” と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 時刻合わせを開始します

時計表示になるまで押し続けます。

3 調整する項目を選択します

設定できる項目(時、分)を選択します。

4 時刻を調整します

5 手順3〜4を繰り返して時刻を合わせます

▶ “分”を調整したときには、時計合わせ終了時に00秒からスタートします。

6 FNC ボタンを押して終了します

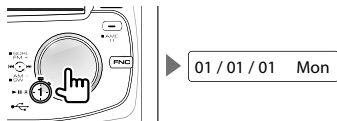
● 時計は12時間制で表示します。

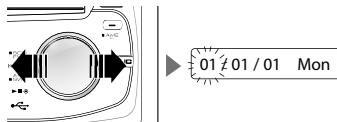
日付合わせ

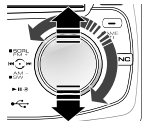
本機の日付を合わせます。

1 スタンバイ ソースにする▶ FNC ボタンを押し▶ “MENU” ▶ “Date Adjust” と選択します

選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

2 日付合わせを開始します

日付表示になるまで押し続けます。

3 合わせる項目を選択します

設定できる項目(年、月、日)を選択します。

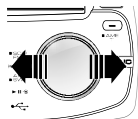
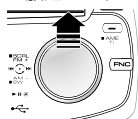
4 日付を合わせます

5 手順3〜4を繰り返して日付を合わせます

6 FNC ボタンを押して終了します

テレビコントロール

別売品のLX-BUS 対応のナビゲーション、HDX-710などが接続されているときに、本機からテレビのコントロールをすることができます。

基本操作

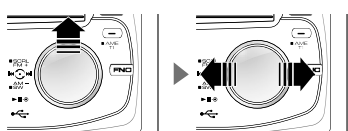
受信するテレビチャンネルを選択します

テレビ放送バンドとビデオ入力を切り替えます

テレビバンドとビデオ入力が切り替わります。

音声多重放送のメイン音声とサブ音声を切り替えます

メイン音声とサブ音声に切り替わります。

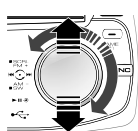
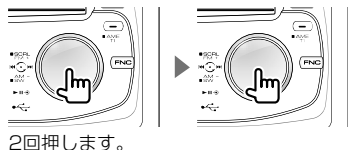
- 動作は接続している別売品のテレビモニターの設定によって異なります。詳しくは、テレビモニターの取扱説明書を参照してください。

マニュアルメモリー

1 バンドと放送局を選びます

放送局を受信します。

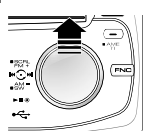
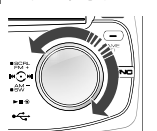
2 FNC ボタンを押し▶ “P.MEM” を選択します

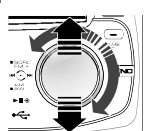
選択のしかたは「ファンクションコントロール」（p16）を参照してください。

3 メモリーする番号を選びます

4 メモリーする番号を決定します

2回押します。

プリセットメモリーモードを中止するときは… FNC ボタンを押します

プリセットチューニング

1 バンドを選びます

2 プリセットチューニング選択モードにします

チャンネルリストが表示されます。

3 呼び出すプリセットナンバーを選びます

4 放送局を呼び出します

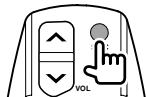
リモコン操作

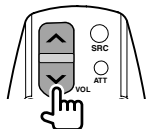
本機を付属のリモコンで操作することができます。

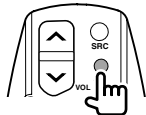
- リモコンは、ブレーキ操作などによって動かない場所においてください。ペダルの下などに落ちると、運転操作に支障をきたして危険です。
- 電池を炎の中に入れたり、高温になる場所に置かないでください。破裂することがあります。
- 電池を充電、ショート、分解、加熱したり、火の中に入れたりしないでください。液漏れを起こす危険があります。液漏れを起こし、目に入ったり、皮膚や衣類に付着したときは、すぐに水で洗い流し、すぐに医師に相談してください。また、電池は子供の手の届かないところに置き、万一飲み込んだときは、すぐに医師に相談してください。

共通操作

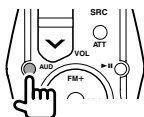
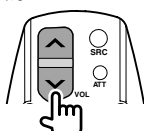
ソース切り替え

プレイするソースを切り替えます。

音量調整

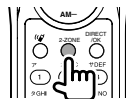
音量を調整します。

アッテネーター

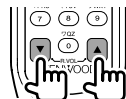
ワンタッチで音量を小さくします。もう一度押すと、元の音量に戻ります。

オーディオコントロール

音質などを調整します。

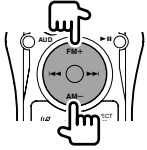
1 調整する項目を選びます。

2 調整します。

- 調整できる項目については「音質などを調整します」（p11）をご覧ください。
- 「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）の項目は、リモコンでは操作できません。

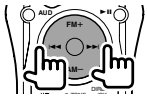
デュアルゾーン

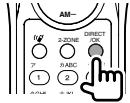
デュアルゾーン機能をオン/オフします。

リア音量調整

デュアルゾーン機能オン時のリアの音量を調整します。

ラジオ

バンド切り替え

受信するバンドを切り替えます。

選局

受信する放送局を切り替えます。

ダイレクトチューニング

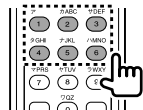
このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。

例：76.1MHz（FM）の場合（3桁）

7 6 1

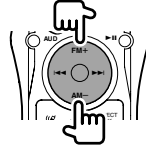
例：522kHz（AM）の場合（4桁）

0 5 2 2

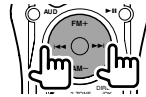
プリセットチューニング

メモリーされている放送局の番号を押すと、プリセットされた局を受信できます。

CD/オーディオファイル/KSF

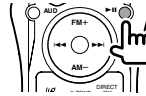
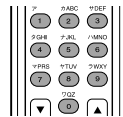
ディスクサーチ/フォルダサーチ
（ディスクサーチ：ディスクチェンジャーのみ）

プレイするディスク/フォルダを選択します。

また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のディスクをダイレクトサーチします。

トラックサーチ/ファイルサーチ

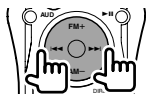
プレイする曲/ファイルを選択します。

また、テンキーに続けて押すと、指定した番号のトラック/ファイルをダイレクトサーチします。

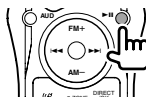
プレイ/ポーズ

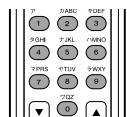
プレイを一時停止します。
もう一度押すと、プレイを再開します。

テンキー

- テンキーに続いてディスクサーチまたはトラックサーチキーを押すと、ダイレクトサーチできます。
- オーディオファイルのプレイ中にテンキーに続いてファイルサーチキーを押すとプレイ中のフォルダ内のファイルをダイレクトサーチできます。
- iPod、Music Editorメディア、およびKSFのプレイ中は、ダイレクトサーチできません。
- ランダムプレイまたはスキャンプレイがオンのときは、ダイレクトサーチできません。

ネームセット

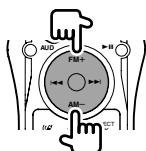
カーソル

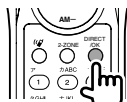
カーソルを文字を入力する位置に移動します。

文字種切り替え

入力する文字の種類（英大文字/英小文字/カタカナ/ひらがな/数字・記号）を切り替えます。

文字入力

文字を入力します。

例：「コ」を入力する場合（カタカナ）
　(2)（9回押す）
例：「h」を入力する場合（英小文字）
　(4)（2回押す）

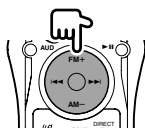
文字選択

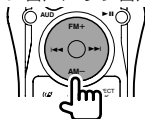
文字を順に切り替えます。

終了

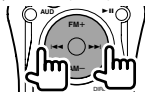
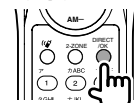
登録が完了します。

- SNPS/DNPSを開始するには、本体での操作が必要です。詳しい操作方法は「ネームセット」（p24）をご覧ください。
- リモコンでは漢字の入力モードにすることはできません。本体での操作が必要です。

テレビ

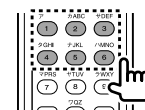
バンド／ビデオ切り替え

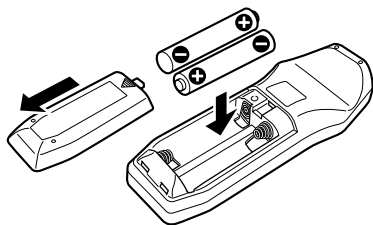
受信するテレビバンドの放送局とビデオ入力を切り替えます。

音声多重切り替え

メイン音声／サブ音声を切り替えます。

チャンネル選択

受信するチャンネルを選択します。

ダイレクトチューニング

このボタンに続けて、受信する放送局をテンキーで指定します。
例：3chの場合（2桁）
　(0)(3)

プリセットチューニング

メモリーされている放送局の番号を押すと、プリセットされた局を受信できます。

電池の入れかた

付属の電池（単三形2本）を＋/－の向きを正しく合わせて入れてください。

- 操作できる距離が短くなったり、なかなか動作しない場合は、乾電池が消耗していることが考えられます。
  このような場合は、2個とも新しい乾電池と交換してください。新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用すると、液漏れなどによる故障の原因になります。

オーディオファイル

以下のオーディオファイルがプレイできます。

プレイできるオーディオファイル
AAC-LC (.m4a), MP3 (.mp3), WMA (.wma)

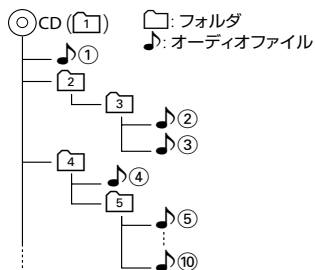
プレイできるディスクメディア
CD-R, CD-RW, CD-ROM

プレイできるディスクフォーマット
ISO 9660 Level 1/2, Joliet, Romeo, Long file name

プレイできるUSBデバイス
USBマスストレージクラス、付属のiPod接続ケーブルで接続されたiPod

プレイできるUSBデバイスファイルフォーマット
FAT16, FAT32

上記の規格に準拠したオーディオファイルであっても、メディアやデバイスの種類やコンディションにより正常にプレイできない場合があります。

オーディオファイルのプレイする順番
下記のようなフォルダ・ファイル階層のメディアでは①から⑩の順にプレイされます。

オーディオファイルに関するオンラインマニュアルを、**www.kenwood.com/audiofile/**で公開しています。オンラインマニュアルには、本書に記載されていない詳しい情報や注意事項が掲載されています。本書とあわせて必ずお読みください。

- USBデバイスやiPodを接続して本機の電源をオンにすると、接続している機器の充電ができます。
- USBハブやマルチカードリーダーを介してUSBデバイスを認識させることはできません。

ミュージックエディター

本機にはMusic Editor PCアプリケーションソフトウェアのCD-ROMが付属しています。
Music Editorで作成したUSBデバイスを再生できます。

- Music Editorの取り扱いについてはCD-ROMに収録されている説明書およびアプリケーションヘルプを参照してください。
- Music Editor の機能や使用方法などについては、ケンウッド　カスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- Music Editorに関する最新の情報は、下記URLをご覧ください。
URL：http://www.kenwood.co.jp/faq/

iPodについて

iPodを接続するには次の2種類があります。

- 付属のiPod接続ケーブルで接続する
ソース選択の“USB”表示は認識後に“iPod”になり、本機からコントロールが可能になります。本書で断りの無い限り「iPod」と呼んでいるのは付属のiPod接続ケーブルで接続されたiPodを指します。
- KCA-iP501で接続する
ソース選択で“EXT MEDIA”を選び、本機からコントロールが可能になります。プレイのしかたなど詳しくは、KCA-iP501の取扱説明書をご覧ください。

付属のiPod接続ケーブルについて

- 付属のiPod接続ケーブルに接続可能なiPodはFifth Generation iPod、iPod classic、iPod nano、および iPod touchです。（詳しくは最新のカタログをご覧ください。）
- iPodとの接続については「接続」（p48）をご覧ください。
- iPodを接続して本機の電源をオンにすると、接続している機器の充電ができます。
- iPodを接続してプレイすると、最初はiPodでプレイしていた曲から始まります。タイトルなどを切り替えると、ブラウズ項目が“PLAYLIST”に切り替わり曲のタイトルなどが表示されます。
- iPodを接続している間は、iPodの操作はできません。

音楽などの著作物を個人的に楽しむなどの場合を除き、著作権利者の許諾を得ずに複製（録音）、配布、配信することは著作権法で禁止されています。

共通

? チューナーの感度が悪い

✔ 自動車のアンテナが伸びていない。
☛ アンテナを十分に伸ばしてください。

✔ アンテナコントロール電源が接続されていない。
☛ 「接続」（p48）を参照して正しく接続し直してください。

✔ アンテナ入力がきちんと接続されていない。
☛ 車両側のアンテナを確実に接続してください。

? 接続したテレビユニットでUSBソースに切り替えても、USBソースの表示・音声案内をしない

✔ テレビユニットなどでは、USBソースはCDソースと認識されるため、CDソースの表示・音声案内がされている。
☛ CDソースからUSBソース、またはUSBソースからCDソースに切り替えたときは、表示は変わらず音声案内もされません。

USBデバイス

? • USBデバイスを認識しない
• USBデバイスのオーディオファイルの音が出なくなった

✔ USBコネクターが抜けている。
☛ USBデバイスやUSBケーブルのコネクターを確実に接続してください。

メニュー（MENU）

? セキュリティコードを忘れた

✔ セキュリティコードを調べることはできません。
☛ ケンウッドサービスセンターにご相談ください。

ミュージックディスク

? ディスクを取り出せない

✔ 車両のACCスイッチをオフにしてから10分以上経過したため。
☛ ACCスイッチをオフにしてからディスクを取り出せるのは10分以内です。10分以上経過した場合は、再度ACCをオンにしてから[⏏]（イジェクト）ボタンを押してください。

? CDやオーディオファイルをプレイできない

✔ ディスクが異常に汚れている。
☛ 「ディスクの取り扱いについて」（p9）を見て、ディスクをクリーニングしてください。

オーディオファイル

? 曲がスキップする

✔ 対応していないオーディオファイルをプレイした。
☛ www.kenwood.com/audiofile/を参照して、本機でプレイできるオーディオファイルに変換してください。

? オーディオファイルがプレイできない

✔ メニューの“CD Read”項目を“2”に設定している。
☛ 「ファンクションコントロール」（p16）を見て、“CD Read”項目を“1”に設定してください。

✔ ディスクに傷や汚れがある。
☛ 「ディスクの取り扱いについて」（p9）を見て、ディスクをクリーニングしてください。

? 演奏時間表示が実際の演奏時間と一致しない

✔ オーディオファイルの記録された状況により、演奏時間が一致しないことがあります。
☛ —

? フォルダサーチをするとノイズが出る

✔ オーディオファイルが入っていないフォルダが連続しているとノイズが出ることがあります。
☛ オーディオファイルが入っていないフォルダは作らないでください

共通

AAC（エーエーシー）
正式名「Advanced Audio Coding」の略称です。デジタル放送などに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるAAC収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。

KSF（ケイエスエフ）
外部接続された別売品のHDX-710などのハードディスクに記録されている音楽ファイルです。

LX BUS テレビモニター（エルエックスバステレビモニター）
外部接続された別売品のテレビモニターやナビゲーションシステム（HDX-710など）です。

MP3（エムピースリー）
正式名「MPEG Audio Layer 3」の略称です。
MPEG AudioはDVDやVideo CDなどに使用されている画像圧縮方法のオーディオ部分のみの圧縮規格です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるMP3収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。

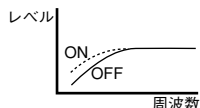
Music Editorメディア（ミュージックエディターメディア）
Music Editor で作成したUSBデバイスです。本機に付属のPCアプリケーションソフトウェアでプレイリスト機能などを追加できます。

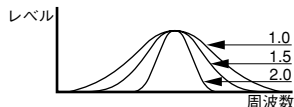
WMA（Windows Media™ Audio）
米国マイクロソフト社が開発した音声圧縮符号化方式「Windows Media™ Audio」の略称です。
本書ではこの方式を使用したオーディオファイルを指す場合もあります。使用できるWMA収録メディアの種類やフォーマットなどは「オーディオファイル」（p38）をご覧ください。

ディスクチェンジャー
外部接続された別売品のCDチェンジャー（KDC-C520、KDC-C406など）やマルチメディアプレーヤー（VD-C77）です。

オーディオコントロール

2 ZONE（デュアルゾーン）
デュアルゾーン機能とは、メインソースとサブソース（AUX入力）をフロントスピーカーとリアスピーカーに振り分けて出力する機能です。この機能のオン/オフを設定します。
- 内蔵AUX(サブソース)は、「デュアルゾーン設定」（p27）で設定します。
- メインソースは「ソースを切り替えます」（p11）で設定します。
- フロントの音量はオーディオノブで調整します。
- リアの音量は「オーディオコントロールの詳細設定」（p26）の“REAR VOLUME”または「リア音量調整」（p34）で調整します。

BASS EXT（バスエキステンデッド）
この機能をONに設定すると、低音中心周波数が低域側に約20%伸びた状態になります。

BASS FRQ/MIDDLE FRQ/TREBLE FRQ（バスフリケンシィ/ミドルフリケンシィ/トレブルフリケンシィ）
低音、中音、高音を調節する周波数（中心周波数）を、この機能を使って設定することができます。

BASS Q FACTOR/MIDDLE Q FACTOR（クォリティファクタ）
低音、中音の調節スロープを設定する機能です。設定値が大きくなるほどスロープの傾斜が大きくなります。

dB EQUALIZER（ダイナミックブーストイコライザー）

ジャンル別に設定された効果には以下のような特徴があります。
ROCK：スピーディーで力強いアタック音を再現します。
VOCAL：生き生きとしたボーカルを主体に再現します。
EASY：中低域をベースにした味わい深いサウンドを再現します。
DANCE：ビートの利いた音を再現します。
JAZZ：ウッドベースの音階やボーカルの質感を鮮明に再現します。
NATURAL：原音のまま出力します。

HPF-F/HPF-R（ハイパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも低い成分をカットします。
プリアウトをサブウーファー用に使用するときに、この機能を使って、出力から低域成分をカットして高域のみの音にします。“Through”に設定すると、この機能をオフにできます。
本機では、ハイパスフィルターをフロントスピーカー（HPF-F）とリアスピーカー（HPF-R）に独立して設定できます。

LPF（ローパスフィルター）

設定された周波数（カットオフ周波数）よりも高い成分をカットします。
プリアウトをサブウーファー用に使用するときに、この機能を使って、出力から高域成分をカットして低域のみの音にします。“Through”に設定すると、この機能をオフにできます。

NAV VOLUME（ナビ音量）

カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の音量を設定できます。

REAR VOLUME（リア音量）

デュアルゾーン機能使用時の、リア側の音量を調整します。

SUB-W LEVEL（サブウーファー音量）

サブウーファーの音量を調整します。

SW PHASE（サブウーファーフェイズ）

サブウーファーの位相（正相/逆相）を設定します。

VOL-OFFSET（ボリュームオフセット）

各ソースごとの音量の差を調整します。
これにより、ソースを切り替えても、ほぼ同じ音量で聴くことができます。

メニュー（MENU）

AMP（内蔵アンプ出力）

内蔵アンプの出力をオン/オフします。
フロントスピーカー、リアスピーカーともプリアウト端子にパワーアンプを接続してシステムを組んでいるようなときは、この機能を“Off”に設定することにより、内蔵アンプの稼働を停止させることができます。
内蔵アンプの稼働を停止させると、プリアウトからの音声出力のクォリティをアップさせることができます。

Beep（ビープ）

ボタンを押したときに、押されたことが確認できるように“ピッ”音がする機能です。押してすぐ離したときには“ピッ”と鳴り、1秒以上または2秒以上押して機能をオンにしたときには“ピッピッ”と鳴ります。うるさく感じたときには“OFF”に設定することにより消すことができます。
なお、ビープ音はプリアウトからは出力されません。

Built in AUX（内蔵AUX入力）

AUX端子は、ポータブルオーディオやビデオ/ナビなどの外部機器の音声を本機に入力する端子です。
この機能は、内蔵AUX端子への音声入力をオン/オフします。
この機能をオンにすると、AUX端子から入力された音声は、AUXソースに切り替えることにより、本機で聴くことができます。
また、デュアルゾーン機能を使って、他のソースと同時に出力することもできます。
使用しないときはオフにしてください。

CD Read（CDリード）

CDの読み込み方法を設定します。
特殊なフォーマットのCDをプレイ時に、正常にプレイができない場合に“2”を設定すると強制的にCDをプレイすることができる機能です。なお、“2”に設定しても、音楽CDによってはプレイできない場合があります。また、“2”に設定するとオーディオファイルのプレイはできなくなります。通常は“1”でお使いください。
1：ディスクのプレイ時にオーディオファイルのディスクと音楽CDを自動的に識別します。
2：音楽CDとして強制的にプレイします。

Dimmer（ディマー）

車両のライトスイッチに連動して、表示部の明るさが自動的に切り替わります。

Display（ディスプレイ）

本機の操作を5秒間行わないと、表示部を消すことができます。これにより、車両ウィンドウへのディスプレイの写り込みを防ぐことができます。
ただし、各設定モード中などは5秒経過しても、表示部は消えません。

ILM Dimmer（イルミネーション ディマー）

イルミネーションの輝度を下げます。
AUTO：車両のライトスイッチに連動して減光します。
MNAL1：常時減光します。
MNAL2：上下のイルミネーションを消灯し、左右のイルミネーションを減光します。
OFF：減光しません。

ILM Effect （イルミネーション エフェクト）

本機の操作に連動してイルミネーションの輝度を変える演出効果を設定します。
OFF：演出効果がありません。
ON：本機を操作するごとに、輝度が変化します。

ILM MSC SYNC （イルミネーション ミュージック シンク）

音量に連動してイルミネーションの輝度を変える演出効果を設定します。
OFF：演出効果がありません。
ON：音量により輝度が変化します。

iPod Mode（アイポッドモード）

「ミュージックセレクト」（p22）でiPod内の曲を探すときの操作方法を設定します。
ON：iPodの操作に近い操作方法になります。
OFF：iPod以外の操作方法になります。

MONO（モノラル設定）

この機能でFMステレオ放送をモノラル音声にすることができます。
受信状態の悪いFM放送局を聴いているときに、音声をモノラルにすると雑音が軽減されて聞き易くなるときがあります。

Name Set（ネームセット）

FM/AM（ラジオ）ソースでは、放送局に名前を付けます（SNPS）。
CDソースでは、ディスクに名前を付けます（DNPS）。
AUXソースでは、AUXソースの名前を変更できます（AUXネーム）。

NAV Guide（ナビガイド）

カーナビゲーションの音声ガイド時の本機の動作を設定することができます。この機能を使用する場合は、本機とナビゲーションシステムのラインミュート端子またはミュート端子を接続してください。
ATT：ナビ音声ガイド時は、オーディオの音を小さくします。
INT：ナビ音声ガイドをフロントスピーカーから出力します。
この機能を"INT"に設定して、ナビ音声ガイドの割り込みをする場合は、「接続」（p48〜50）を参照して、AUX入力にナビゲーションシステムを接続してください。
ケンウッド製カーナビゲーションシステムを接続してこの機能を使用する場合は、ナビゲーションシステムの「オーディオATT」機能をオン、または「オーディオ接続設定」機能を設定してください。
また、2001年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムを接続している場合は「音声割り込み」機能もオンに設定してください。
なお、この機能は1997年以前に発売のケンウッド製ナビゲーションシステムやケンウッド製以外のカーナビゲーションで使用すると正常に動作しない場合があります。

Scroll（スクロール）

ディスプレイにディスク/トラックタイトル、ディスク/トラックテキスト、グループタイトル、フォルダネーム、ファイルネーム、曲タイトル/アーティスト名またはアルバム名を選択しているとき、文字数が多いため表示しきれない場合にスクロールして表示する機能です。
この機能を"Auto"に設定しておくとスクロール表示を繰り返し行い、"Manual"に設定しておくと表示が変わったときだけ1回スクロール表示するようにできます。

Security Set（セキュリティコードセット）/ Security Clear（セキュリティコードクリア）

セキュリティコードを設定/解除します。
セキュリティコードを設定しておくと、本機の電源コードを外したときやリセットボタンを押したときなどの、次に初めて使うときは、設定したセキュリティコードを入力しないと本機を使用できないようになります。すなわち、本機を車両から外したときは、セキュリティコードの入力が必要になるため、盗難防止の手助けとなります。

Seek Mode（チューニングモード）

放送局の探し方を設定することができます。
Auto1: 受信状態の良い放送局を自動的に選びます。
Auto2: メモリーされている放送局を番号順に受信します。
Manual: 1ステップずつ周波数が変わります。

SRC Select（ソースセレクト）

ソース（音源）を選択する操作方法を設定します。
操作方法は「ソースを切り替えます」（p11）をご覧ください。
1：ソースアイコンを表示して、コントロールノブでダイレクトに選ぶことができます。
2：ソースを順に切り替えて選択します。

Supreme（サプリーム）

低いビットレートでエンコードしたときに欠落してしまった高音域を、独自のアルゴリズムにより推定・補完する技術です。補完は圧縮フォーマット（AAC、MP3、またはWMA）別に最適化され、ビットレートに合わせて処理されます。
なお、オーディオファイルのフォーマットやエンコード時の設定の関係によっては、効果が分かりにくい場合があります。
iPodの音には効果がありません。

SWPRE（スイッチングプリアウト）

プリアウトをリア用出力（"Rear"）またはサブウーファー用出力（"Sub-W"）に切り替えます。

Zone 2（ゾーン2）

デュアルゾーン機能がオンのときのサブソース（内蔵AUX入力）の出力先（フロントスピーカーまたはリアスピーカー）を設定します。

カンジ ユウセン

CDテキストなどが漢字およびカタカナまたはローマ字で記録されているディスクを聴いているときに、これらを漢字で表示するか、カタカナまたはローマ字で表示するか設定ができます。
ON：漢字で表示(漢字が登録されていない場合は、カタカナまたは英/数文字で表示)
OFF：カタカナまたは英/数文字で表示

無効な操作を以下のように表示してお知らせします。

Blank Disc：

演奏しようとしたMDにデータが1つも記録されていません。

Copy Protection または Copy Protect：

プレイしようとしたオーディオファイルは、コピープロテクトされています。

Eject：

- ディスクマガジンがセットされていません。
- ディスクマガジンが完全に入っていません。
  など

Error 05：

ディスクが裏返しです。

Error 12：

演奏しようとしたMDがデータ用MDです。

No Disc：

ディスクマガジンにディスクが1枚も入っていません。

No Name：

DNPSを登録していないCDでDNPS表示している。

No Track Disc：

演奏しようとしたMDに何も録音されていません。

Read Error：

- 接続しているUSBデバイスのファイルシステムが破損している。

➡ USBデバイスのファイル、フォルダをコピーしなおしてください。その後もエラー表示が消えない場合は、　USBデバイスをフォーマットするか、他のUSBデバイスを使用してください。

TOC Error：

- ディスクが異常に汚れています。
- ディスクに傷が多く付いています。
- ディスクが裏返しになっています。

Unsupported File：

サポートされていないフォーマットのオーディオファイルをプレイしようとしました。

システムの状態を以下のように表示してお知らせします。

Error 77：

何らかの原因で正常に動作していない。

➡ 本機のリセットボタンを押してください。“Error 77”の表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

DEMO MODE：

本機の機能をディスプレイに表示するデモンストレーションモード中です。解除するにはデモンストレーションモードをオフ（p31）にしてください。

Hold Error：

ディスクチェンジャーの内部温度が60℃以上になると保護回路が働き、動作しなくなることがあります。このときこの表示が出ます。

➡ ディスクチェンジャーの取り付け場所の温度を下げてから使用してください。

IN インジケーター（点滅）：

CDプレーヤーが正常に動作していない。

➡ CDを取り出してから、CDを入れなおしてください。

iPod Error：

iPodとの接続に不具合が発生しています。

➡ iPodをKCA-iP100から取り外し、接続しなおしてください。

➡ iPodのソフトウェアを最新のものにアップデートしてから接続してください。

Mecha Error：

何らかの原因で正常に動作していない。

➡ [⏏]（イジェクト）ボタンを押してください。イジェクトボタンを押しても表示が消えないときは本機のリセットボタンを押してください。なお、表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

N/A Device：

サポートされていないUSBデバイスを接続した。

➡ リムーブモードにしないで取り外してください。サポートされているUSBデバイスについては「Help? オーディオファイル」（p38）を参照してください。

No Device：

USBデバイスが接続されていないときにUSBソースにした。

➡ USBソース以外のソースにした後、USBデバイスを接続し、再びUSBソースに切り替えてください。

No Music Data または Error 15：

接続されているUSBデバイス内には、プレイできるフォーマットのオーディオファイルがありません。

Load（点滅）：

ディスクチェンジャー内のディスクを交換中です。

Protect（点滅）：

スピーカーコードがショートまたは車両のシャーシーに接触したために、保護回路が働きました。

➡ スピーカーコードを適切に配線/絶縁しなおしてから、リセットボタンを押してください。
“Protect”表示が消えない場合、お近くのケンウッドサービス窓口へご相談ください。

Reading（点滅）：

ディスクに収録されているデータのチェック中です。

Security ----：

セキュリティコード入力要求表示です。

USB Error：

● 接続されているUSBデバイスに不具合が発生した可能性があります。

➡ USBデバイスを取り外し、電源を入れなおしてください。再度同じ表示がされる場合は、他のUSBデバイスをお使いください。

USB REMOVE（点滅）：

USBデバイスがリムーブモードになっています。USBデバイスが安全に取り外せます。

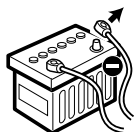
取り付け時のご注意

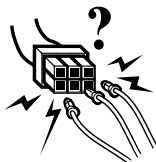
⚠警告

禁 止

大型トラックや寒冷地仕様のディーゼル車などの24V車で使用しないでください。火災などの原因となります。本製品はDC12V㊀アース車専用です。

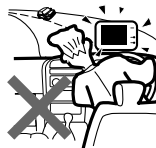
実 施

配線作業中は、バッテリーの㊀端子を外してから行ってください。ショート事故による感電やケガの原因となります。

実 施

本製品の配線は必ず、取扱説明書に記載してある通りに行ってください。配線を間違えますと、火災、その他の事故の原因となります。

禁 止

コードの被覆を切って、他の機器の電源を取ることは絶対にお止めください。リード線の電流容量をオーバーし、火災・感電の原因となります。

禁 止

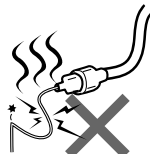
本製品を前方の視界を妨げる場所や、運転操作を妨げる場所、同乗者に危険を及ぼす場所には取り付けないでください。交通事故やケガの原因となります。

実 施

本製品を取り付けの際には、必ず専用付属品をご使用ください。専用付属品をご使用にならないと、製品内部を壊し、ショート事故による火災が起こるおそれがあります。
また、取り付け不備により運転中に製品が外れて人に当たるなど、ケガの原因となります。

禁 止

アースコードを、ステアリング部やブレーキライン系統などの重要保安部品のボルトやナットに取り付けないでください。事故などの原因となります。

禁 止

車両電源配線用コード以外で延長しないでください。コードの被覆が破れやすく、ショート・発熱事故による火災が起こるおそれがあります。また、電流容量オーバーにより、火災が起こるおそれがあります。

実 施

車両の板金部の近くを通るコードには、保護用テープを巻いてください。
コードが切れると、ショート事故により、火災となるおそれがあります。

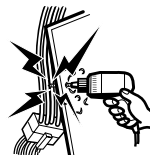
実 施

バッテリー電源（黄）を接続する車両側電源のヒューズ容量が、本機のヒューズ容量（10A）以上であることを確認してください。
また、別売品のパワーアンプなどを接続する場合は、それらと本機との総ヒューズ容量が車両側のヒューズ容量以下であることを確認してください。もし、超える場合には、バッテリーから直接電源を取ってください。
車両側のヒューズ容量を超える電源を接続すると、リード線の電流容量オーバーにより、火災などの事故の原因となります。

実 施

電源端子およびスピーカー端子のカバーが、端子の先端より長い場合は、接続が不完全になる場合があります。このような場合は、カバーの長さを端子の長さと同じになるように切り取ってください。

注 意

車体に穴を開けて取り付ける際は、パイプ類・タンク・電気配線などの位置を確認のうえ、これらと当たったり接触することがないようにしてください。火災の原因になります。

実 施

本製品の取り付け終了後に、車のブレーキランプ、ヘッドランプ、ウィンカー、ワイパーなどが正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、正常に動作するように取り付けをやり直してください。

注 意

本製品、または車両のヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、必ずヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。規定容量以外のヒューズを使用しますと、火災の原因になります。

実 施

事故防止のため、電池やネジなどの小物類は幼児の手の届かないところに保管してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

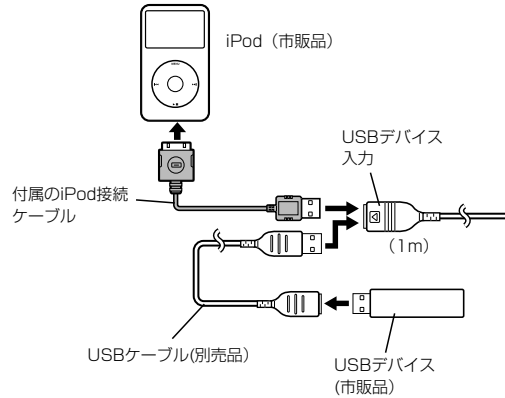
注 意

本製品を使用直後は、本体の背面や側面などの金属部分が熱くなっています。直接触ることはお止めください。火傷をする場合があります。

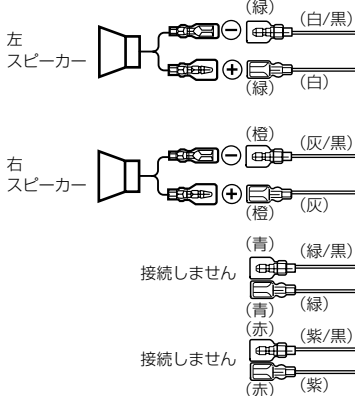
接続

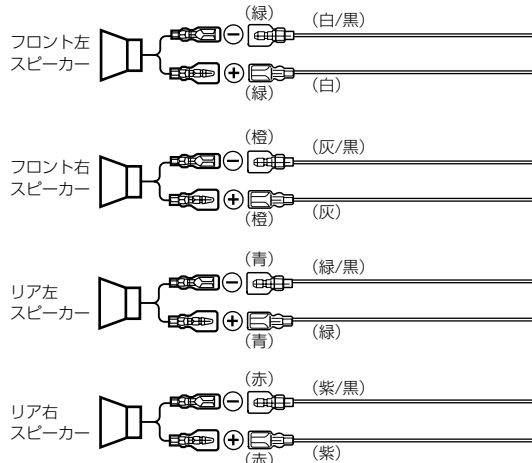
実施

初めにエンジンキーが抜かれていることを確認後、ショート事故防止のため必ずバッテリーの⊖端子を外してください。

1. エンジンキーを抜きます。バッテリーの⊖端子を外します。
2. 各セットの入・出力コードを確かめて接続します。
3. 電源ハーネスのスピーカーコードを接続します。
4. 電源ハーネスをアースコード（黒）、バッテリー電源コード（黄）、アクセサリー電源コード（赤）の順に接続します。
5. 電源ハーネスのコネクターを本機に接続します。
6. 取り付け終了後に、バッテリーの⊖端子を接続します。
7. 電源をオンします。
8. 本機のリセットボタン（p8）を押します。

注意

ヒューズが切れたときは、コードがショートしていないことを確認後、**ヒューズに表示されている容量（アンペア数）の新しいヒューズと交換してください。**規定容量以外のヒューズを使用すると、火災の原因になります。

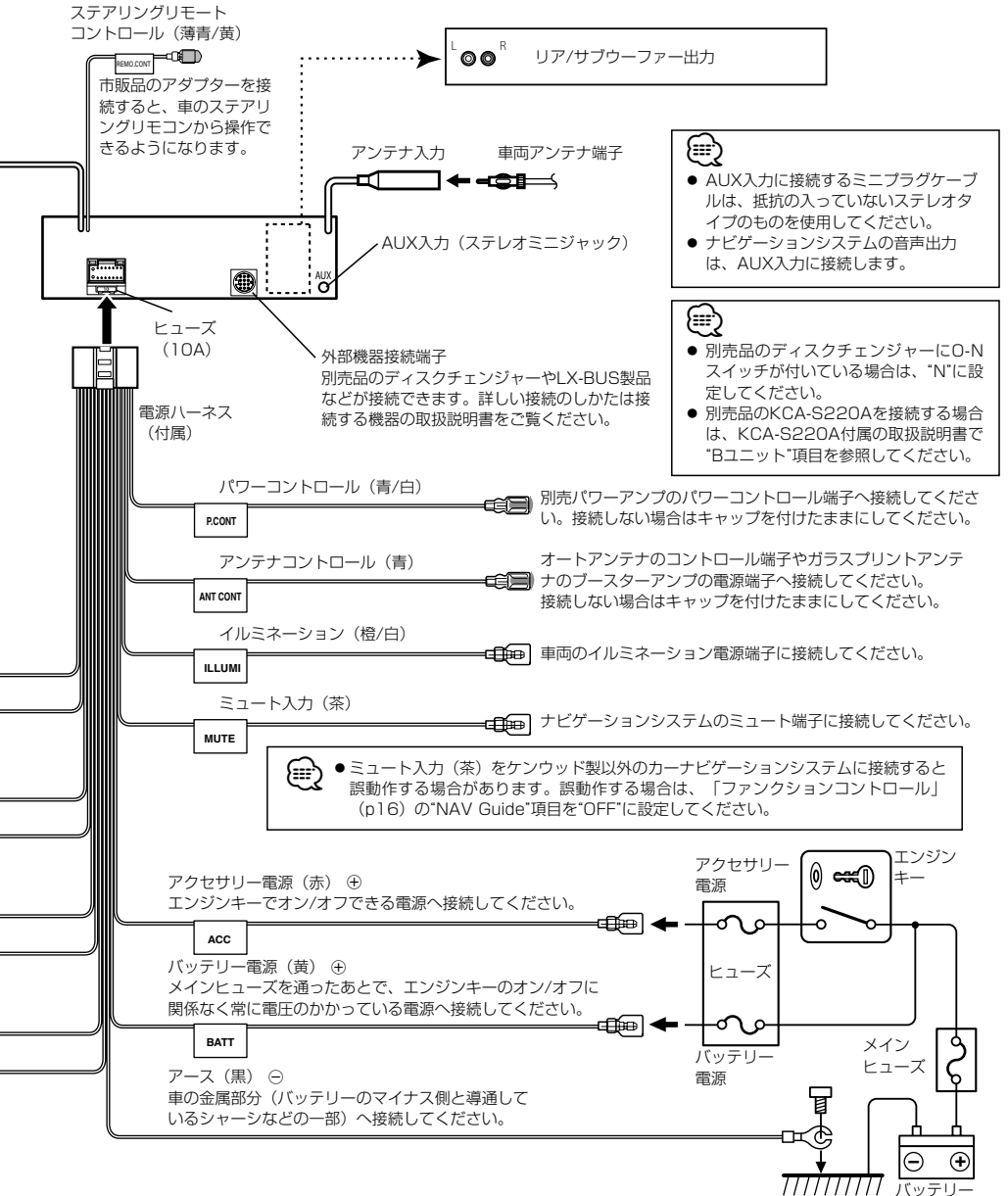
- USBケーブルを延長するときは、CA-U1EX（別売品）の使用を推奨します。
- USBケーブルを接続しないときは、キャップを外さないでください。コネクター部が車の金属部分に接触すると、本機の誤動作の原因になります。

注意

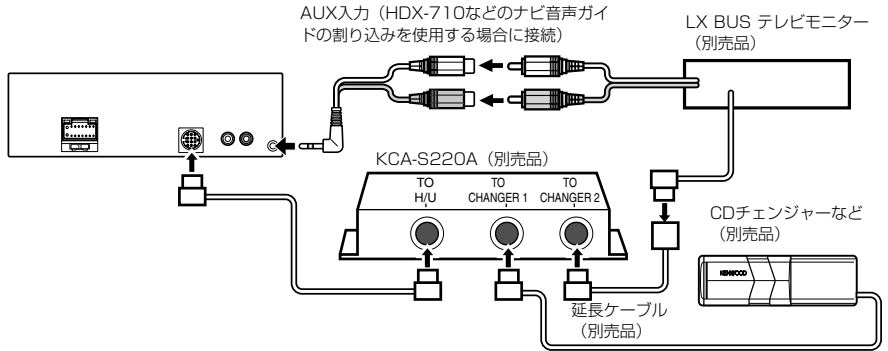
接続しないスピーカーコードの端子は、端子に保護テープを巻くなどの絶縁処理を行ってください。

注意

- スピーカーコードの⊕⊖端子を車のシャーシなどに接触させないでください。
- 複数のスピーカーコードの⊖端子を共通にして接続しないでください。

- AUX入力に接続するミニプラグケーブルは、抵抗の入っていないステレオタイプのものを使用してください。
- ナビゲーションシステムの音声出力は、AUX入力に接続します。

- 別売品のディスクチェンジャーにO-Nスイッチが付いている場合は、“N”に設定してください。
- 別売品のKCA-S220Aを接続する場合は、KCA-S220A付属の取扱説明書で“Bユニット”項目を参照してください。

- ミュート入力（茶）をケンウッド製以外のカーナビゲーションシステムに接続すると誤動作する場合があります。誤動作する場合は、「ファンクションコントロール」（p16）の“NAV Guide”項目を“OFF”に設定してください。

KCA-S220A（別売品）を使ってLX BUS テレビモニターを接続する場合

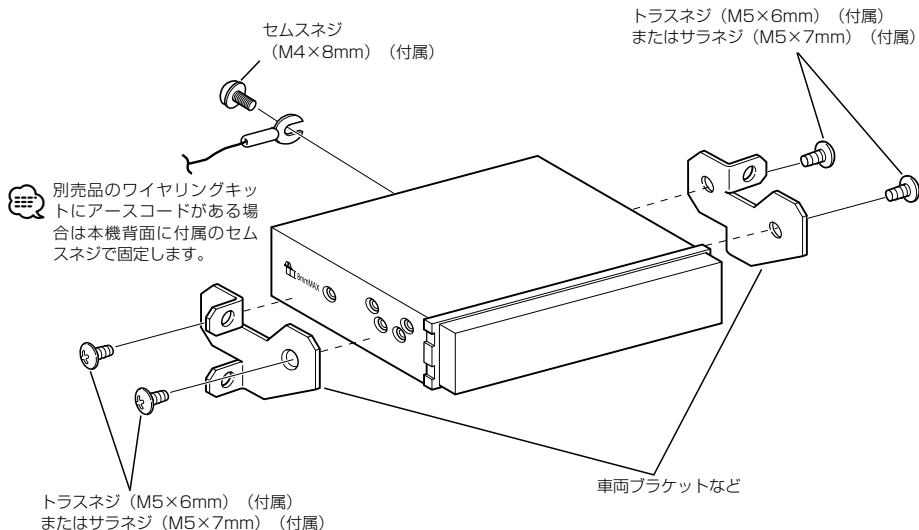
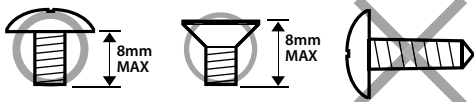
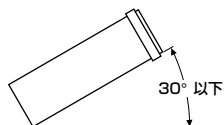
- LX BUS テレビモニターは、KCA-S220Aの“TO CHANGER2”端子に接続してください。
- HDX-710などでナビ音声ガイドの割り込みを行う場合は「ファンクションコントロール」（p16）の“NAV Guide”項目を“INT”にして、LX BUSケーブルを接続してください。

取り付け

付属のトラスネジ（M5×6mm）またはサラネジ（M5×7mm）を4本使用して車両ブラケットなどに取り付けます。

付属ネジ	個数
トラスネジ (M5 × 6 mm)	4
サラネジ (M5 × 7 mm)	4
セムスネジ (M4 × 8 mm)	1

注 意

取り付けには必ず付属のネジをご使用ください。
付属以外の長いネジを使用すると、本機内部が破壊したり、発煙することがあります。また、短いネジを使用すると、本機が取付ブラケットなどから外れることがあります。
なお、取り付けネジはトラスネジまたはサラネジが付属しています。車両に合ったネジをご使用ください。

注 意

- **本機の取り付け角度は30˚以下になるように取り付けてください。30˚以上の角度で取り付けると音飛びの原因になります。**
- **操作パネルを持って取り付け/取り外しをしないでください。破損することがあります。**

- 別売品のワイヤリングキットや取り付けキットを使用することにより、車にベストフィットした取り付けができます。キットは取り付ける車種に応じて用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

保証とアフターサービス　必ずお読みください

保証について

● **保証書**

この製品には、保証書を添付しております。
保証書は、必ず「お買い上げ日・販売店」等の記入をお確かめのうえ、販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。

● **保証期間**

お買上げの日より1年です。

修理を依頼されるときは

「Help? 故障かな？と思ったら」を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源をオフにして、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにお問い合わせください。（“ケンウッド全国サービス網”をご参照ください。）

修理に出された場合は、お客様が登録、設定したメモリー内容がすべて消去されることがあります。あらかじめご了承ください。

● **保証期間中は...**

保証書の規定に従って、お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターが修理させていただきます。ご依頼の際は保証書をご提示ください。
本機以外の原因（衝撃や水分、異物の混入など）による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

● **保証期間経過後は...**

お買い上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。
補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後6年です。
（補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

● **持込修理**

この製品は持込修理とさせて頂きます。

- 本機をお持ちになるときは、接続しているユニットも一緒にお持ちください。
  (本機や一緒に持ち込まれるユニット内のディスクなどのメディアはあらかじめ取り出してください。)
- 製品を修理に持ち込まれる際は、輸送中に傷が付くのを防ぐため、包装してください。

● **修理料金のしくみ**（有料修理の場合は、つぎの料金が必要です。）

- 技術料：故障した製品を正常な状態に修復するための料金です。
  技術者の人件費、技術教育費、測定器等設備費、一般管理費等が含まれます。
- 部品代：修理に使用した部品代です。
  その他修理に付帯する部材等を含む場合があります。

なお、アフターサービスについてご不明な点は、お買上げの販売店またはケンウッドサービスセンターにご遠慮なくお問い合わせください。

ケンウッド 全国サービス網

アフターサービスについてのお申し込みは、購入店かお近くのケンウッドサービスセンターへお申しつけください。

北海道			
札幌サービスセンター	〒 007-0834	札幌市東区北34条東14丁目1-23	☎ (011) 743-7740

東北			
仙台サービスセンター	〒 984-0042	仙台市若林区大和町5-32-12 (サンライズ大和)	☎ (022) 284-1171

関東・信越			
さいたまサービスセンター	〒 330-0801	さいたま市大宮区土手町1-2 (JA共済埼玉ビル1F)	☎ (048) 647-6818
千葉サービスセンター	〒 277-0081	柏市富里1-2-1	☎ (04) 7163-1441
横浜サービスセンター	〒 226-8525	横浜市緑区白山1-16-2	☎ (045) 939-6242
新潟サービスセンター	〒 950-0923	新潟市姥ヶ山1-5-37	☎ (025) 287-7736
目黒サービスセンター (修理持込専用窓口)	〒 153-0042	目黒区青葉台3-17-9	☎ (03) 3477-5411*

*目黒サービスセンターへの電話でのお問い合わせは、当社カスタマーサポートセンターに転送にて承ります。

中部・甲州			
名古屋サービスセンター	〒 462-0861	名古屋市北区辻本通1-11	☎ (052) 917-2550
静岡サービスセンター	〒 420-0816	静岡市葵区沓谷5-61-1	☎ (054) 262-8700
金沢サービスセンター	〒 920-0036	金沢市元菊町21-87	☎ (076) 265-5045

近畿・四国			
大阪サービスセンター	〒 532-0034	大阪市淀川区野中北2-1-22	☎ (06) 6394-8075
高松サービスセンター	〒 760-0068	高松市松島町3-1	☎ (087) 835-2413

中国			
広島サービスセンター	〒 731-0137	広島市安佐南区山本1-8-23	☎ (082) 832-2210

九州			
福岡サービスセンター	〒 815-0035	福岡市南区向野2-8-18	☎ (092) 551-9755
鹿児島サービスセンター	〒 890-0063	鹿児島市鴨池2-15-10 (パレス鴨池1F)	☎ (099) 251-6347
沖縄サービスセンター	〒 901-2101	浦添市西原4-36-17（（株）物流2F)	☎ (098) 874-9010

■ サービスセンターの営業時間のご案内
受付時間　10:00～18:00 (土曜、日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます)
（各サービス窓口の名称、所在地、電話番号は変更になることがありますのでご了承ください。）

仕様一覧

FMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：76.0 MHz～90.0 MHz（100 kHz）
実用感度（S/N：30 dB）
：9.3 dBf（0.8 μV/75 Ω）
S/N 50 dB感度
：15.2 dBf（1.6 μV/75 Ω）
周波数特性（±3.0 dB）
：30 Hz～15 kHz
S/N比
：70 dB （MONO）
選択度（±400 kHz）
：80 dB以上
ステレオセパレーション
：40 dB（1 kHz）

AMチューナー部

受信周波数範囲（周波数ステップ）
：522 kHz～1629 kHz（9 kHz）
感度
：28 dBμ（25 μV）

CDプレーヤー部

レーザーダイオード
：GaAlAs
デジタルフィルター（D/A）
：8倍オーバーサンプリング
D/Aコンバーター
：24Bit
回転数
：500～200 rpm（線速度一定）
ワウ& フラッター
：測定限界以下
周波数特性
：10 Hz～20 kHz（±1 dB）
高調波歪率
：0.008 % （1 kHz）
S/N比
：110 dB （1 kHz）
ダイナミックレンジ
：93 dB
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC形式 “.m4a” ファイル

USB I/F部

USB規格
：USB 1.1/2.0 （Full speed対応）
最大供給電流
：500 mA
ファイルシステム
：FAT16/32
MP3デコード
：MPEG-1/2 Audio Layer-3準拠
WMAデコード
：Windows Media™ Audio 準拠
AACデコード
：AAC-LC形式 “.m4a” ファイル

AUX入力

周波数特性
：20 Hz～20 kHz （±1 dB）
最大入力電圧
：1200 mV
入力インピーダンス
：100 kΩ

オーディオ部

最大出力
：50 W × 4
定格出力
：30 W × 4（4Ω、1kHz、10%THD以下）
スピーカーインピーダンス
：4～8 Ω
プリアウトレベル（CD/CD-CH）
：2500 mV/10 kΩ
プリアウトインピーダンス
：600 Ω以下
オーディオコントロール
バス：100 Hz ± 8 dB
ミドル：1 kHz ± 8 dB
トレブル：10 kHz ± 8 dB

電源部

電源電圧
：14.4 V （11～16 V）
最大消費電流
：10 A

寸法・質量

埋込寸法（W × H × D）
：178 × 50 × 160 mm
質量（重さ）
：1.20 kg

付属部品

電源ハーネス
：1本
トラスネジ（M5 × 6 mm）
：4本
サラネジ（M5 × 7 mm）
：4本
セムスネジ（M4 × 8 mm）
：1本
リモコン
：1個
乾電池
：2個（単３型）
CD-ROM (Music Editor)
：1枚
iPod接続ケーブル
：1本

※これらの仕様およびデザインは、技術開発にともない予告なく変更になる場合があります。

KENWOOD

株式会社 ケンウッド

〒 192-8525　東京都八王子市石川町 2967-3

- 商品に関するお問い合わせは、カスタマーサポートセンターをご利用ください。

ナビダイヤル　0570-010-114（一般電話・公衆電話からは、どこからでも市内通話料金でお問い合わせが可能です）
携帯電話、PHS、IP電話からは 045-933-5133
FAX　045-933-5553
住所　〒226-8525 神奈川県横浜市緑区白山1-16-2
受付時間　月曜～金曜　9:30～18:00
土曜　9:30～12:00、13:00～17:30
（日曜、祝日および当社休日は休ませていただきます）

- 修理などアフターサービスについては、お買い上げの販売店か、または、「ケンウッド全国サービス網」をご参照のうえ、最寄りのサービスセンターにご相談ください。